地域で生活する認知症の人を支える
通所型サービスの手引き

平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究」
検討委員会、手引書作成委員会
社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター

目　次

本手引書について……2

1．地域包括ケアシステムの考えと通所型サービスの役割……3
① 地域包括ケアシステムとは……3
② 新オレンジプランと通所型サービスに期待されていること……4
③ 通所型サービスの種類とその内容、強み……5
④ 通所型サービスの強みを活かした認知症の人への支援……5
1．利用者と職員が共に過ごす時間の長さ……6
2．定期的かつ継続的な介護者との関わり……6

2．通所型サービスの強みを活かし認知症の人の在宅生活を支援する……8
① 聞き取り・観察調査について……8
② まずは地域を知る……9
1．事業所のある地域の特徴……9
2．事業所の利用者の特徴を知る……10
③ 認知症の利用者への支援で力を入れているポイント……12
1．アセスメントと計画に基づく日々の支援……13
2．介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携……31
3．介護者支援……33
4．職員配置と情報共有……37

3．認知症の人の在宅生活継続のために……39



本手引書について

この手引書は、今後ますます増加する認知症の人の在宅生活を支えていくために、地域の貴重な社会資源である通所型サービスがどのような役割を担い、またどのように支援をしていくとよいか、認知症ケアに力を入れている通所介護や認知症の人へのサービスに特化した認知症対応型通所介護の取り組みを紹介しつつ、お示しするものです。

2015 年 1 月現在、全国には約 42,000 件以上の通所介護と、約 3,800 件程度の認知症対応型通所介護があります。平成 25 年度に三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティングが実施した調査[1]によると、回答のあった 1,821 通所介護事業所のうち、利用者の 36%が、認知症高齢者の日常生活自立度のⅡａ以上でした[2]。また、認知症対応型通所介護はその名の通り、認知症の人を対象とした通所介護です。

認知症ケアの実践は日々進化しています。また、パーソンセンタードケア、ユマニチュード、回想法や短期集中リハビリなど、認知症ケアにおける理論や実践は様々ですが、ここで紹介しているのは、「通所介護・認知症対応型通所介護」における実践についてであり、認知症ケアの理論や行動、心理症状への個別の対応方法についての具体例は紹介しておりません。それらについては、ぜひ専門書を参考にしてください。

この手引書が皆様の日々の取組みの一助となれば幸いです。

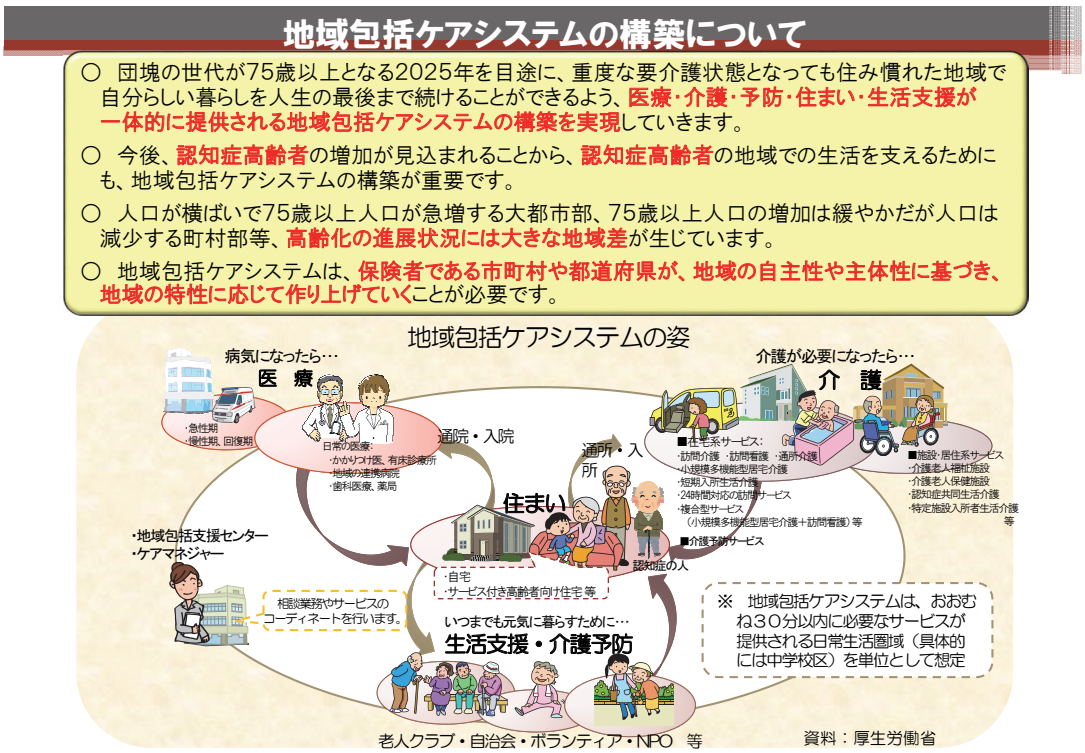
1　三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング「通所介護のあり方に関する調査研究事業」平成 25 年度厚生労働省老人保健検討増進等事業、2014 年 3 月

2　なお、「認知症なし」は 25.7%、「Ⅰ」は 16.6%、「わからない」が 21.7%という結果でした。

1．地域包括ケアシステムの考えと通所型サービスの役割

①　地域包括ケアシステムとは

我が国の高齢化はますます進んでおり、平成 25 年 10 月 1 日の段階で 25.1% に達しています[3]。特に、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向け、厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を推進しています。これは、「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される」ことを目標としており、各自治体においては、地域福祉計画や高齢者福祉計画、介護保険事業計画などを通じて、その実現に向けて、様々な施策が展開されています。



通所介護や認知症対応型通所介護は、この地域包括ケアシステムにおける地域の貴重な社会資源の１つであり、「介護」の機能を担うことはもちろんのこと、他のサービス提供機関等と共に、認知症の人の地域での生活を支えていくことが求められています。

3　内閣府「平成 26 年度版高齢社会白書」 http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf
（情報検索日：平成 27 年 3 月 12 日）

②　新オレンジプランと通所型サービスに期待されていること

厚生労働省は平成 24 年 6 月に「今後の認知症施策の方向性について[4]」の報告書を発表し、「認知症になっても住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けること」を目標に、7 つの柱を発表しました（「オレンジプラン」）。その後、平成 26 年 11 月に東京で開催された認知症サミットにおいて、安倍首相が認知症を国家総合戦略として位置付けることを発表したことを受け、オレンジプランの見直しを行い、平成 27 年 1 月に「新オレンジプラン」[5] として発表しました。

新オレンジプランの柱は以下の 7 点です。

新オレンジプランの基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

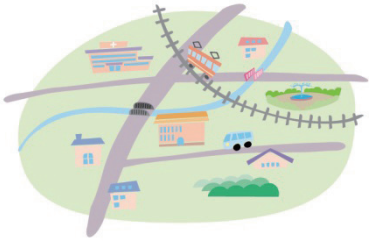
- 厚生労働省が関係府省庁（内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）と共同して策定
- 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる2025（平成37）年だが、数値目標は介護保険に合わせて2017（平成29）年度末等
- 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七つの柱

①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
③若年性認知症施策の強化
④認知症の人の介護者への支援
⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
⑦認知症の人やその家族の視点の重視

（資料：厚生労働省 HP）

認知症施策の基本的な考え方は「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」であり、通所型サービスはその一端の役割を担う、大変重要なサービスです。





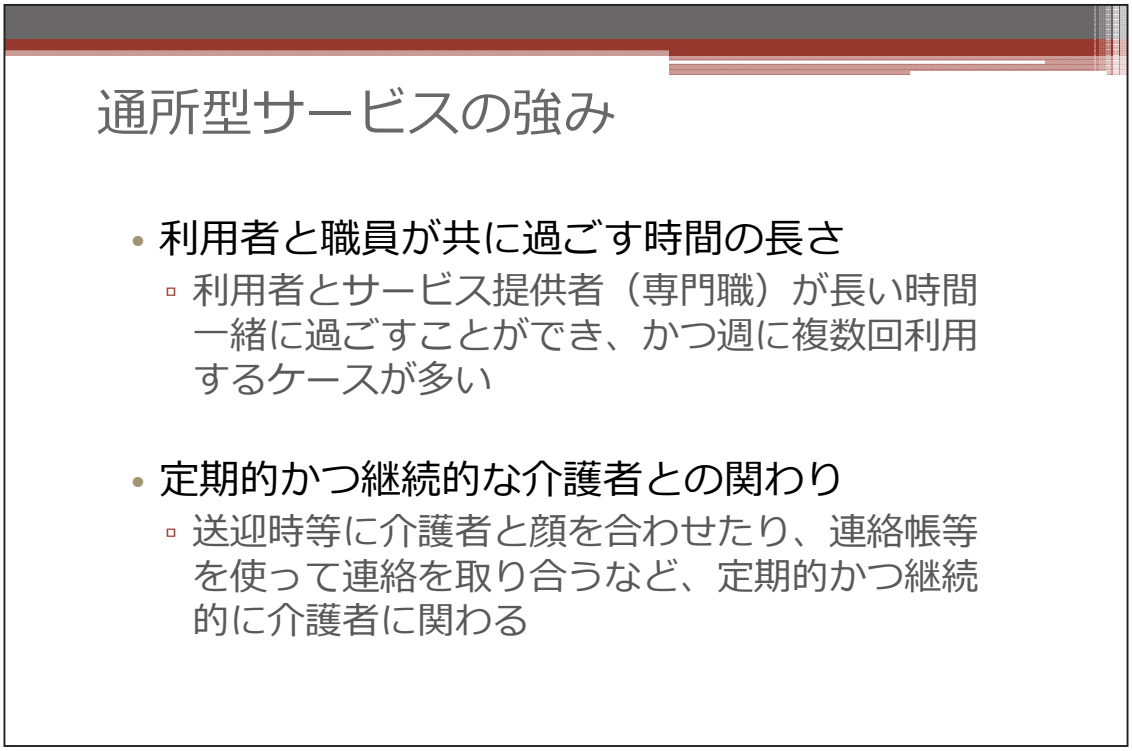
4　厚生労働省「今後の認知症施策の方向性について」 http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dementia/dl/houkousei-02.pdf（情報検索日：平成 27 年 3 月 12 日）

5　厚生労働省「『認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）』について」 http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000072246.html（情報検索日：平成 27 年 3 月 12 日）

③　通所型サービスの種類とその内容、強み

介護保険法によって位置づけられている通所型サービスには、「認知症対応型通所介護」、「通所介護」、「通所リハビリテーション」、「療養通所介護」の４つがあります[6]。

これらのサービスに共通することは、利用者と職員が共に過ごす時間が長く、また、介護者と定期的かつ継続的に顔を合わせることが多い（ただし同居家族がいる場合）という点があります[7][8]。



④　通所型サービスの強みを活かした認知症の人への支援

地域包括ケアシステムの構築を通じ、「認知症の人が住み慣れた地域のよりよい環境で暮らし続けることができる社会の実現」が望まれますが、その実現のために、通所型サービスは「通所ならでは」の強みを活かした関わりが求められます。

6　この他、医療保険サービスとして「重度認知症デイケア」もあります。

7　三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング「通所介護のあり方に関する調査研究事業」平成 25 年度老人保健健康増進等事業、2014 年 3 月

8　認知症介護研究・研修東京センター「認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する研究」平成 25 年度介護報酬改定検証・研究委員会事業、2014 年 3 月

その柱は以下の２点です。

1.　利用者と職員が共に過ごす時間の長さ

→利用者の容態*やペースを踏まえた臨機応変のケアを提供

2.　定期的かつ継続的な介護者との関わり

→介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供

＊厚生労働省は新オレンジプランより「容態」という言葉を使っていることから、本手引書でも「容態」に統一しました。

１．利用者と職員が共に過ごす時間の長さ

通所型サービスは、その事業形態にもよりますが、多くは５～７時間、７～９時間の時間区分でサービスを提供している事業所が多いです。また、週に２回以上利用している利用者の割合も高く、他の在宅サービスに比べ、利用者と職員とが共に過ごす時間が長いことが強みです。

認知症の人は、その疾患ゆえ、日によって、また時間帯によって、その容態が変化しますが、通所型サービスはその利用時間の長さを活かし、臨機応変に対応することが可能です。また、一日単位の関わりだけでなく、月や年を通して継続的に関わることで、その人の様子や変化をとらえていくことが出来ます。

また、一日を通しての利用者の生活リズムやペースを踏まえたケアの実践内容を、介護支援専門員をはじめとし、関係者（医療機関、訪問介護事業所、短期入所生活介護等）と共有することで、それぞれがよりよいケアを提供することができるようになります。

加えて、定期的かつ継続的な利用を通じ、その人に今後どのような支援が必要になりそうか、医師等から助言をもらうことで、機能訓練を含め、予防的に関わることができますし、「認知症は進行していく疾患」であることを踏まえ、疾患の特長を踏まえ進行に合わせたケアの提供や重度の寝たきり状態や医療的ニーズ、ターミナルケアまでを意識した継続的な支援[9]も可能となります。

２．定期的かつ継続的な介護者との関わり

通所型サービスは利用者のみならず、介護者との接点も多いサービスです。具体的には、送迎や連絡帳、家族会の開催などです。

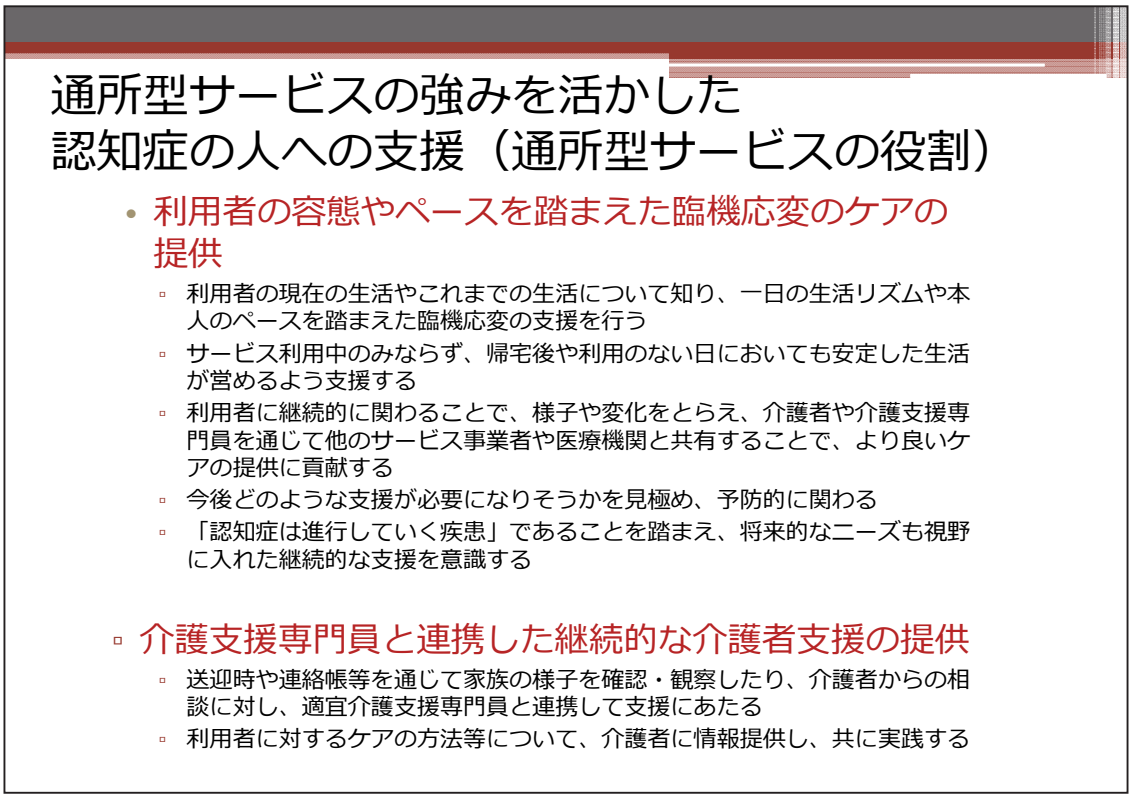
通所型サービスは利用者を自宅から事業所、事業所から自宅へと送迎しています。家族形態や家族の就労状況によって異なりますが、送迎の時間は介護者の様子を観察したり、家の様子を見ることのできる貴重な機会です。例えば、送迎時に家族が疲れていたり、いつもの様子とは異なるように見えるとき、悩みがありそうに見えるときなど、家族の様子を管理者や相談員、

9　ただし、重度な身体介護や高度な医療的ケアが必要な場合、介護支援専門員を通じて、訪問介護や訪問看護、医療機関等、それを担うサービスと連携したり、うまく橋渡しをするための支援を行うことが、デイサービスの役割です。

他の職員と共有することはもちろん、介護支援専門員等と連携することで、サービスの見直しにより介護者負担を軽減したり、介護支援専門員が訪問して事情を伺うなど、介護者の困りごとや悩みを解決するための、窓口となります。

同様に、連絡帳を通じて、介護者と利用日の様子や利用日以外の様子を介護者とやり取りをしている事業所が大半かと思いますが、その際に家族の困りごとや相談したいことなどを察知し、事業所の相談員が対応したり、必要に応じて介護支援専門員と連携することで、適宜適切な介護者支援の提供が可能となります。

また、認知症の人は、その人、その人によって出現する行動心理症状（いわゆる BPSD）が異なり、また進行の状況によって必要な介護も変わっていきます。そのため、個々の利用者に対する対応やケアの手法について、介護者に情報提供し、家庭での介護負担を軽減したり、より利用者に適したケアを提供するための環境を整えていくことができます。



2. 通所型サービスの強みを活かし認知症の人の在宅生活を支援する

介護保険が導入されて以降、地域には様々な介護保険サービスが整備されてきました。特に通所型サービス事業所の整備率は大変高く、社会福祉法人といった福祉専門の法人だけでなく、株式会社や有限会社、特定非営利活動法人など、様々な法人が通所型サービスを展開しています。その背景には、高齢者の数が今後もますます増加することが見込まれており、それに伴い認知症の人の数もますます増えることがあります。

地域包括ケアの構築のためには通所型サービスが有機的・多角的に機能し、自宅で暮らす認知症の人の支援の中心となっていく必要があります。地域で認知症の人を支えていくために、通所型サービスはどのような支援を行っていくべきか、ここからは、認知症ケアに力をいれている通所型サービス（以下、デイサービス）に対する聞き取り・観察調査[10]の結果を基に、ポイントごとにまとめていきます。

①　聞き取り・観察調査について

本調査は、全国にある認知症対応型通所介護事業所ならびに通所介護事業所のうち、認知症ケアに力を入れているとの推薦があった事業所計 25 か所を対象[11]に、平成 26 年 12 月から平成 27 年 3 月まで実施しました。対象となった事業所の事業形態は以下となります。

事業形態	型	事業所数
認知症対応型通所介護	単独型	15
	併設型	2
	共用型	2
通所介護	小規模型	4
	通常規模型	1
	大規模型Ⅰ	1
合計		25

10　社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター「地域で暮らす認知症の人の生活を支える通所型サービスのあり方に関する調査研究」（平成 26 年度厚生労働省公人保健健康増進等事業）、2015 年 3 月

11　実際には通所リハビリテーションの事業所を含め、多くの事業所が認知症ケアに力を入れていますが、今回は研究事業の一環として限られた予算の中で調査を実施したため、25 か所に絞らせていただきました。

②　まずは地域を知る

地域で暮らす認知症の人を支援するためには、その地域のニーズを把握することが大切です。まずはじめに、以下の２つのポイントを押さえましょう。

①　事業所のある地域の特徴 ②　事業所の利用者の特徴

１．事業所のある地域の特徴

皆様の事業所のある地域は商業地でしょうか、それとも住宅地でしょうか？冬は雪が積もりますか？平地が多いでしょうか、それとも坂が多いですか？

地域により、自然環境や気候、主な産業や人々の生活、価値観等は異なります。また、同じ県内でも、大きな街と小さな村とでは、人口だけでなく高齢化率や同居者の状況なども異なります。つまり、事業所のある地域の特徴をつかみ、その地域の特徴にあった支援を考えていく必要があります。

今回の調査の対象となった事業所は、北は北海道、南は九州まで点在しており、それぞれの地域の人口規模や高齢化率は大きく異なっています。

図表：聞き取り調査対象事業所の地域

	最大	最小
人口	約 194 万人	約 2.3 万人

	最大	最小
高齢化率	37.8%	19.8%

上記の数字を見ていただくとわかるように、人口約 2.3 万人の地域と、約 194 万人の地域では、人口密度や公共交通機関の整備状況は全くことなりました。また、高齢化率も地域によって様々でした。

このほかにも、世帯構成（独居の割合、高齢者のみ世帯の割合等）、主な産業、医療･介護サービス事業所の整備数など､地域の特徴はぜひ押さえておきたいものです[12]。こういった地域の特徴を踏まえることで、その地域にどのような高齢者が住んでいるのか、どういった支援が望まれているかなどが見えてきます。



12　市区町村のウェブサイト等で詳しく紹介されている自治体が多いので、ぜひ調べておきましょう。

2．事業所の利用者の特徴を知る

地域の特徴を踏まえたら、次は事業所の利用者の特徴を見てみましょう。今回の調査では、以下のような数字があがりました。

図表：聞き取り調査対象事業所の利用者像[13]

注）下記のデータは「認知症対応型通所介護」の「単独型」と「併設型」の事業所、計 18 ヶ所を対象としています。

	最大	最少	全国平均
男性利用者の割合	64.3%	12.5%	29.6%

	最大	最少	全国平均
80 歳以上の利用者の割合	94.4%	21.4%	72.9%

	最大	最少	全国平均
要介護１の利用者の割合	55.2%	5.1%	18.5%

	最大	最少	全国平均
要介護５の利用者の割合	40.0%	0.0%	13.5%

注にも記した通り、この数字は「認知症対応型通所介護」の「単独型」「併設型」の事業所（計 18 ヶ所）のものですが、例えば男性利用者の割合を見ると、最も多いところは約 65% でした。全国平均が 29.6%であることを考えると、男性の割合が倍以上と、とても特徴ある事業所であることがわかると思います。

同様に、80 歳以上の利用者の割合を見ると、多いところは 94.4% と、ほとんどの利用者が 80 歳以上という事業所もあれば、わずか 21．4 %にとどまる事業所もありました。全国平均は 72.9%ですから、最少の事業所は 70 代以下の利用者がかなり集まっていることがわかります。

また、要介護度を見ると、要介護１の利用者の割合が 55.2%と、半数を超える事業所もあれば、要介護５の利用者が 40%に達する事業所もあるなど、18 か所の事業所の中でも、大分利用者の状態像が異なることがわかります。

この、「利用者像の違い」は大変重要です。というのも、通所型サービスは１日当たりの利用者数がある程度限定されていますが、その中に様々な特徴を持った利用者がいらっしゃいます。その人たち一人一人にあった支援を行うのが大原則ではありますが、同時に「同じ時間を同じ空間で過ごす仲間同士」であることを考えると、まずは利用者全体の特徴をとらえ、その上で生活支援の１つ１つに個別性を考える必要があります。

13　全国平均の値は、認知症介護研究・研修東京センター「認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業報告書」（平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 25 年度調査））における「事業所調査」の結果です。

図表：聞き取り調査対象事業所の利用者の世帯[14]

	最大	最少	全国平均
1人暮らしの利用者の割合	27.3%	0.0%	9.8%

	最大	最少	全国平均
高齢者のみ世帯の割合	71.4%	7.1%	19.5%

	最大	最少
日中独居の利用者の割合	37.1%	0.0%

また、利用者の世帯についても重要です。今回の調査対象の事業所のうち、27.3%もの利用者が1人暮らしである事業所がありました[15]。また、高齢者のみ世帯についての割合が71.4%に達した事業所もあります[16]。

なお、今回の調査では具体的な数字は聞きませんでしたが、「子供との同居」ではあるが、「息子と二人暮らし」「娘と二人暮らし」という世帯が増えてきているという報告もありました。

高齢者のみ世帯の利用者の多い事業所と、介護者である子供（嫁を含む）と同居をしている利用者の多い事業所では、求められる介護者支援は異なりますし、利用者や介護者像を正しくとらえなければ、適切なサービスは提供できません。

ぜひ、事業所のある地域と利用者の特徴をつかみ、どういったニーズがあるのかを考えてみましょう。



14 全国平均の値は、認知症介護研究・研修東京センター「認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業報告書」（平成24年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成25年度調査））における「事業所調査」の結果です。

15 ただし、この事業所の場合、近くに子供が住んでいて、買い物等を支援してくれるケースが多いとのことでした。

16 この事業所の場合、80歳以下の利用者の割合が比較的高い傾向にありました。

③　認知症の利用者への支援で力を入れているポイント

今回の調査に協力いただいた 25 の事業所の特徴をまとめると、全部で 4 つのポイントがありました。

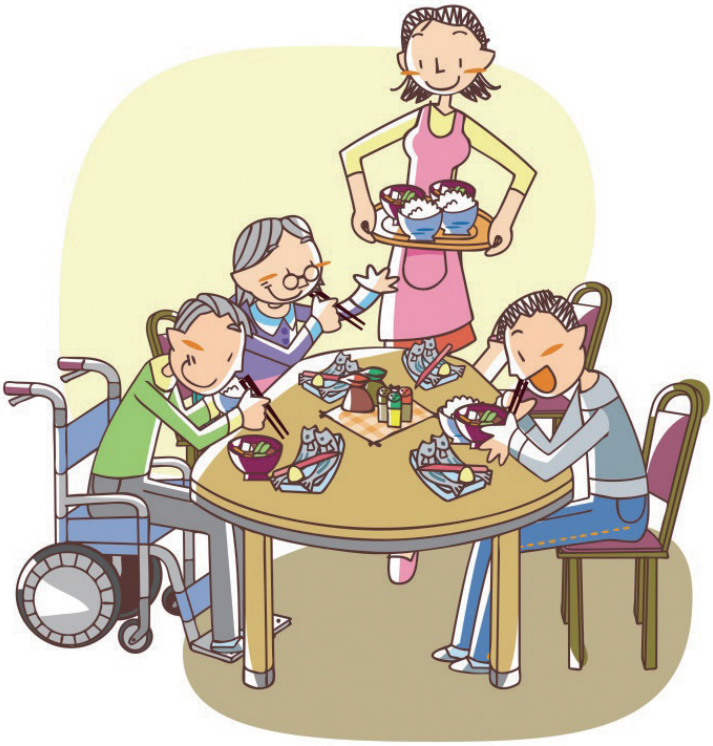
調査対象事業所において
認知症の利用者への支援で力を入れているポイント

① アセスメントと計画に基づく日々の支援
- A) アセスメントの実施
- B) 通所介護計画の立案
- C) 日々の支援

② 介護支援専門員を通じた他のサービス機関との連携

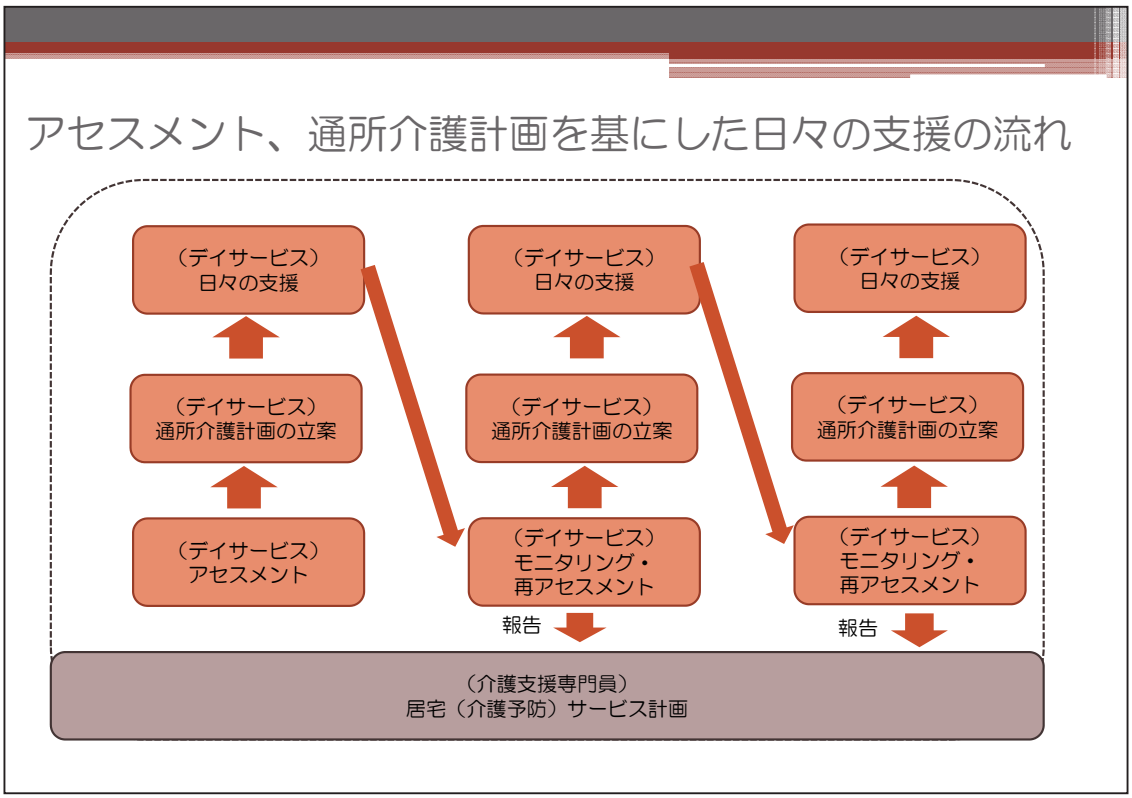
③ 介護者支援

④ 職員配置と情報の共有



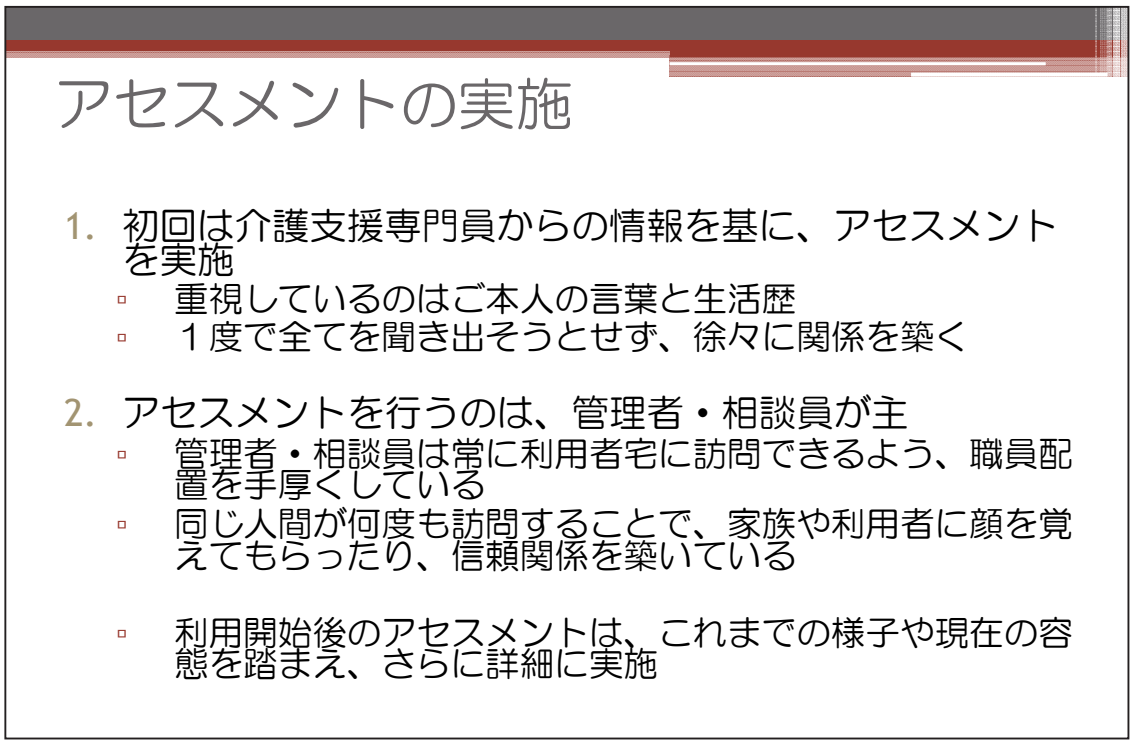
１．アセスメントと計画に基づく日々の支援

デイサービスでは介護支援専門員が立てる居宅（介護予防）サービス計画に基づき、事業所としてのアセスメントを実施し、通所介護計画を立て、そして日々の支援を実践しています。この一連の流れがきちんと行われることにより、利用者のニーズに対して効果的なサービスを提供することが出来ます。



大切なこととして、デイサービスにおける支援は、居宅介護支援計画に基づくものであり、介護支援専門員と連携しながら、利用者のニーズに沿った支援を実践していくことです。特に、デイサービスは利用者と接する時間が長いことから、利用者の容態の変化（よいことも悪いことも）に気がついたり、支援の効果を感じることが多く、そういった情報はきちんと介護支援専門員に連携していきましょう。

A）アセスメントの実施



アセスメントは事業所での支援を考える上での基本情報となります。用いているシートは、事業所で作ったオリジナルもあれば、法人で作成したもの、介護保険サービス事業所向けに作成されたソフトウェアにある書式を使っているところなど様々でしたが、多くの事業所では、アセスメントシートに以下の項目がありました。

① 基本情報（名前、生年月日、家族構成、キーパーソン、緊急連絡先、等）
② 生活情報（生活歴、趣味、利用者の望む生活、日々の過ごし方等）
③ 健康情報（受診病院、疾患、既往歴、服薬内容、等）
④ ADL、IADL（歩行、排泄、食事、入浴、整容・着替え、電話をかける、等）
⑤ 居住環境（居室、玄関、トイレ等の様子、等）

特に②の「生活情報」については、利用開始前だけでなく、利用開始後にかけて丹念に聞き取っている事業所が多く、上記の他にも以下のような項目が報告されました。

＜本人からの聞き取り＞
・外に出ることは好きか：好きであれば機能訓練を兼ねた外出を取り入れる
・毎日の習慣：一日の生活リズムを守る／作る
・得意なことや苦手なこと：日中の過ごし方に活かす

また、介護者から聞き取る情報として、以下のようなものも報告されました。

＜介護者からの聞き取り＞
- 本人が病気をどのように理解しているか：利用者への接し方を考える上での参考
- 申し込みまでの経緯：特に他通所型サービス事業所からの紹介の場合
- 利用の目的：介護者が望む暮らし
- 送迎時の希望（例：介護者が帰ってくる時間がまちまちなので、それに合わせて送ってほしい）

利用者の病気の理解度について、介護者から聞き取りを行っている事業所はごくわずかではありましたが、若年性認知症など若い方の場合、利用者本人が認知症を受け入れているか否かで、支援の内容を若干かえているとの報告がありました[17]。

また、デイサービスで過ごす時間を「在宅での生活の延長」と捉え、在宅での生活パターンをアセスメントしている事業所もありました。シート例は以下となります。

在宅での生活パターンをアセスメントしている書式の例



課題分析（アセスメント）に関する項目　NO. 2

1　作成年月日　年　月　日　実施場所（　）アセスメント理由（　）
2　作成年月日　年　月　日　実施場所（　）アセスメント理由（　）
3　作成年月日　年　月　日　実施場所（　）アセスメント理由（　）

※要介護認定期間内での変更の場合は、区別がつくように加筆すること

利用者の望む生活	なるべく本人の言葉で		
家族の望む生活	複数の家族がいる場合は、それぞれの希望を		
介護力（有・無）	主な介護者	氏名　続柄　同居・別居	
	その他の介護者	氏名　続柄　同居・別居	
	介護に対する考え	就労状況、被介護者との関係性、家族間の関係性、介護者の健康状態、介護の負担、問題(困りごと)等 一月に使える介護費用　円	課題

1日の生活　起床・食事・日中の過ごし方・入浴・就寝など

6:00　12:00　18:00　0:00

日中の過ごし方	1 よく動いている　2 座っていることが多い 3 横になっていることが多い　4 一日中ベッドで過ごす	外出の頻度	1 1日1回以上　2 週1回以上 3 月1回以上　4 月1回未満

資料：サロンデイ語らいの家（東京都世田谷区、認知症対応型通所介護：単独型）
＊このシートはアセスメントシートの２枚目の一部です。

17 例として、利用者が病気を理解している場合には、機能低下がみられている事柄を具体的に利用者に伝え、リハビリなどを積極的に行うことが可能であるが、理解していない場合には、機能低下がみられていることに対しさりげない支援の中でリハビリを行うようにしているそうです。

なお、アセスメント時は、管理者や相談員が伺うことで本人と顔合わせをし、本人の意向を確認しつつ、「デイサービスに行ってみようかな」という気持ちを持っていただけるような関係づくりを試みると同時に、デイサービスではどういった人と一緒に過ごすと楽しく過ごしていただけるか、どなたと話が合いそうかなどを考えながら、利用日の調整を行っています。

実際に利用が開始となると、利用者を取り巻く様々な状況が見えてきます。そのため、利用者側のアセスメントだけでなく、かかわる職員のあり方といった事業所側のアセスメントや、利用者同士の人間関係、利用者が好む環境など、事業所内での関わりや環境を含めたアセスメントを実施している事業所がありました。具体的には以下のような項目です。

- にぎやかすぎないか（職員の声の大きさ・職員の足音・台所の物音など）
- ゆったりとした時間が取れているか
- 不快な臭いはないか
- 整理整頓されているか、物はわかりやすく置かれているか
- 本人の意向は大切にされているか
- 利用者同士の関係性はどうか

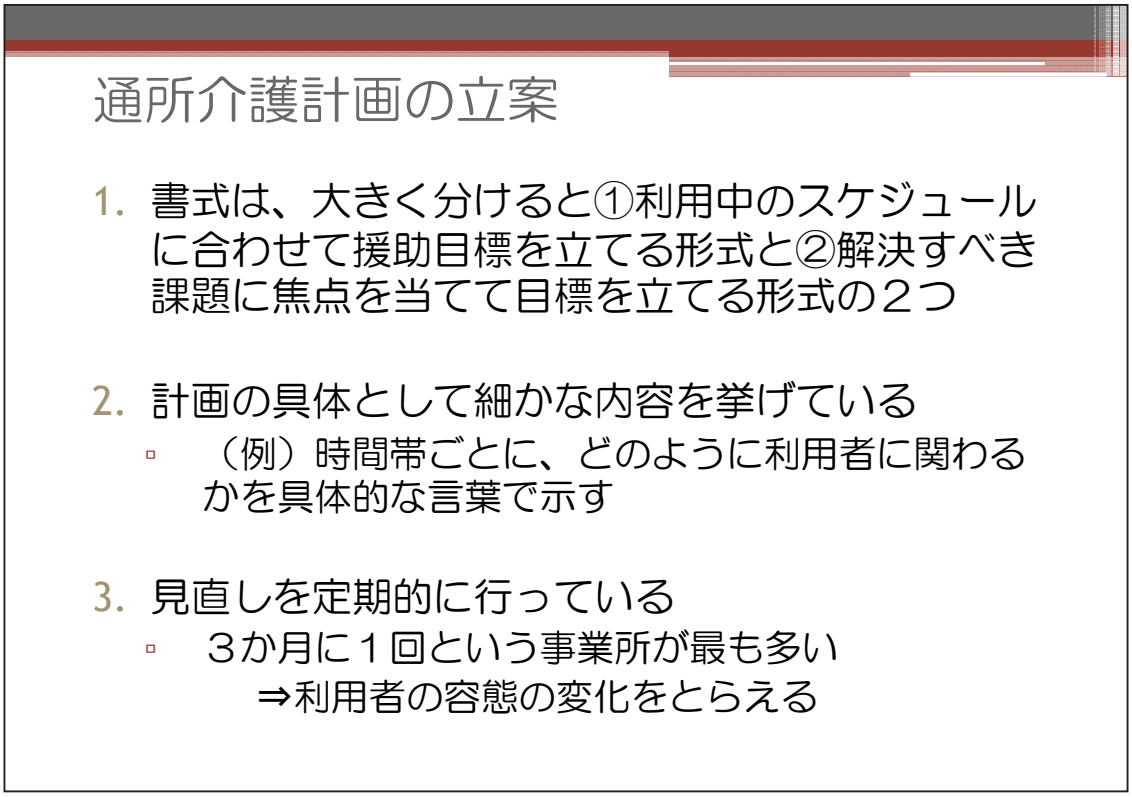
上記に加え、職員自身をアセスメントしている事業所もありました。

- 職員の身なりは整っているか
- 言葉遣いは丁寧か
- 笑顔はあるか
- 利用者ときちんとコミュニケーションがとれているか

このように、個々の認知症の人にとって、快適に過ごせる環境を作るためのアセスメントを併せて行っていくことで、利用者の満足度はさらに上がると思われます。



B）通所介護計画の立案

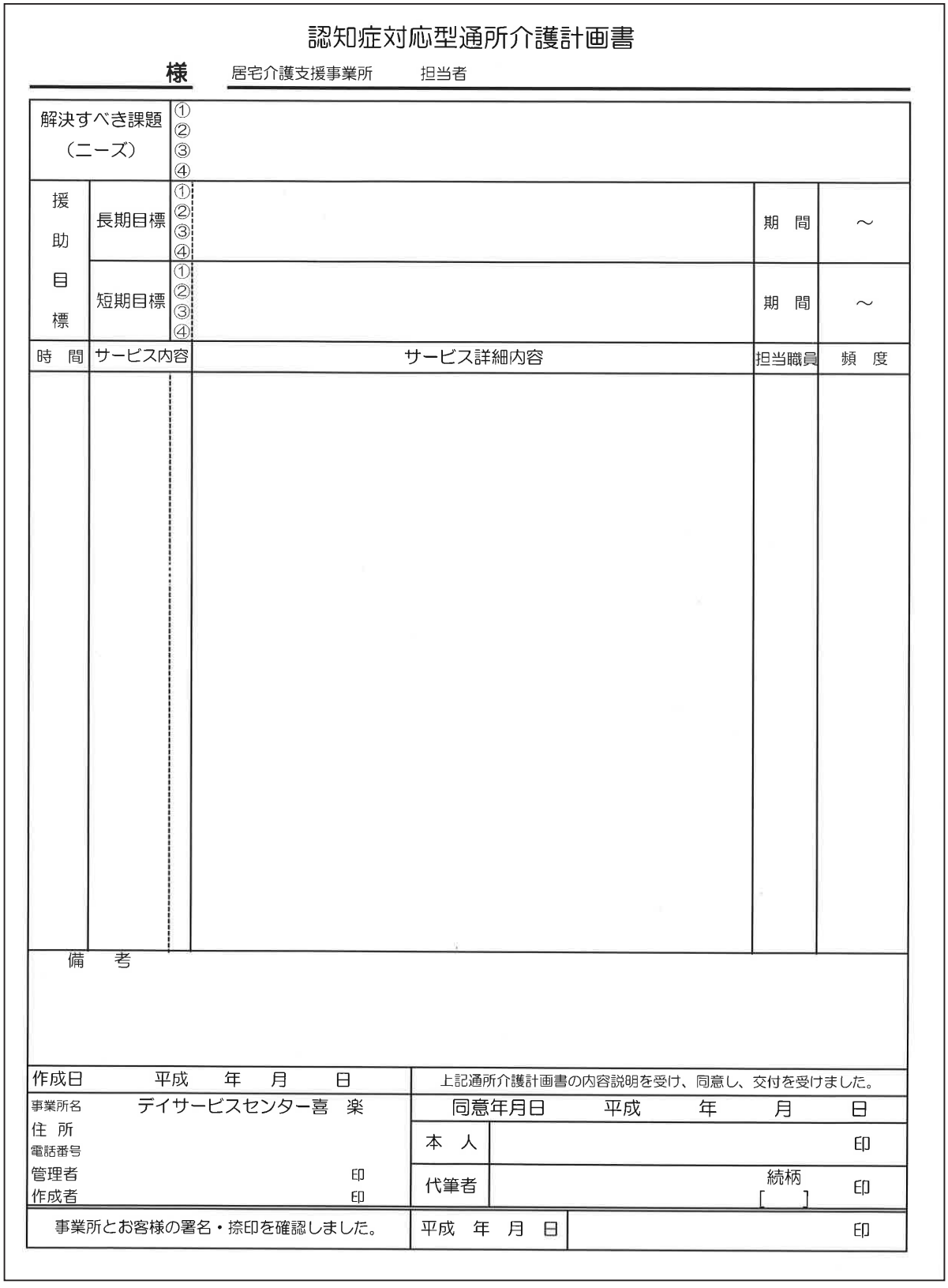


通所介護計画（個別援助計画）の作成は法律により義務付けられており、利用者一人ひとりの異なるニーズを踏まえ、日々の支援につなげていくための計画となります。また、通所介護計画は介護支援専門員が作成する居宅（介護予防）サービス計画と連動しており、そこにある①長期目標、②短期目標と③本人や家族の意向の３点が書かれています。

デイサービスで使っている書式としては、居宅（介護予防）サービス計画にある３点を含めつつ、①デイサービス利用中のスケジュールに合わせて援助目標を立てる形の書式、②解決すべき課題に焦点を当てて目標を立てる形の書式、の２つにわかれました。

①の書式の場合、例えば送迎時の具体的サービス詳細内容として、「ご自分で靴が履けるよう、見守りや声かけをさせていただく」、昼食時であれば「皆さんとおしゃべりをしながら食事を楽しんでいただく」、日中のアクティビティについては「落ちつかれているときにお互いにお話をしながらマッサージをさせていただく。落ちつけない時には散歩やドライブ等で気分転換を図らせていただく。」といったように、デイでの一日の流れに沿ってどのような支援を行うかを記載しています。

①デイサービス利用中のスケジュールに合わせて援助目標を立てる形の書式の例



認知症対応型通所介護計画書

様　　居宅介護支援事業所　　担当者

解決すべき課題（ニーズ）	① ② ③ ④			
援助目標 長期目標	① ② ③ ④		期　間	～
援助目標 短期目標	① ② ③ ④		期　間	～
時　間	サービス内容	サービス詳細内容	担当職員	頻　度
備　考				

作成日　平成　年　月　日	上記通所介護計画書の内容説明を受け、同意し、交付を受けました。
事業所名　デイサービスセンター喜　楽 住　所 電話番号 管理者　印 作成者　印	同意年月日　平成　年　月　日 本　人　印 代筆者　続柄［　］　印
事業所とお客様の署名・捺印を確認しました。	平成　年　月　日　印

デイサービス喜楽（群馬県館林市、認知症対応型通所介護：単独型）

②解決すべき課題に焦点を当てて目標を立てる形の書式の例



通所介護計画書

作成年月日　年　月　日

説明日		説明者	
事業者名	デイサービスゆうあい古枝		
事業者連絡先			

利用者又はご家族の同意署名欄	印

計画作成（変更）日　平成27年1月1日　計画作成者氏名

居宅サービス事業者・所在地

利用者名　様　生年月日　住所

認定日　認定の有効期間　平成27年2月1日　～　平成28年1月31日

要介護状態区分	経過的要介護 ・ 要介護１ ・ 要介護２ ・ 要介護３ ・ 要介護４ ・ 要介護５

1／2頁

生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	目標				援助内容			
	長期目標	（期間）	短期目標	（期間）	サービス内容	担当者	頻度	期間
		平27.01.01～平27.06.30		平27.01.01～平27.03.31				平27.01.01～平27.03.31
		平27.01.01～平27.06.30		平27.01.01～平27.03.31				平27.01.01～平27.03.31

資料：ゆうあい古枝（佐賀県鹿島市、認知症対応型通所介護：単独型）

＊ページは２枚あり、「もう１枚はニーズ、目標、援助内容（上記の下半分）と同じ内容です。

②は、例えば「活動と休息のバランスをとりながら、メリハリのある生活をしたい」という目標に対し、具体的な対応として「顔色や呼吸の状態をみて休息を促す」など、普段から気を付けることを記載しています。

どちらの形式をとるにしろ、大事なことは、利用者一人ひとりの異なるニーズをくみ取って計画を作成しているかどうかです。特に認知症の人は様子に変化が見られやすいことから、通所介護計画の見直しは、容態の急変時や介護保険の更新時の他、定期的（3か月に１回程度）に実施しています。これにより、3か月前の容態と今の容態を比べ、どの部分に変化が見られたか、良い変化であればそれが継続するよう、悪化しているのであれば個別機能訓練を入れるなどして、利用者の在宅生活を支援する計画を立てていきましょう。

次の例は、②の書式をつかっている、「ゆうあい古枝」におけるモニタリング総括表（通所介護計画の見直し時に使用）です。

通所介護計画の見直し時に使うモニタリング総括表の例

モニタリング総括表

利用者ID:　　利用者名:　　様　ケアプラン作成日: 平成27年2月17日　評価日: 平成27年2月17日　1 / 1 頁

評価職員:　　サービス担当者:

短期目標	モニタリングの 時期	モニタリングの 確認方法	サービス実施状況	目標の達成度 （サービス実施の結果）	本人・家族の 意向と意見	今後の対応
				○達成できた:	本人： 家族：	→継続:
				△ほぼ達成できた:	本人： 家族：	▲変更:
				×達成できなかった:	本人： 家族：	■終了:

資料：ゆうあい古枝（佐賀県鹿島市、認知症対応型通所介護：単独型）

今回調査対象となった 25 の事業所のうち、多くは 3 か月に一回、定期的に通所介護計画の見直しを行っており、上記のようなモニタリング総括表等を使って、サービスの実施状況や目標の達成度、本人・家族の意向と意見などを踏まえ、今後の対応を考え、それを通所介護計画に反映させています。

また、通所介護計画の見直し時に家族からアンケートを取っている事業所もありました。以下はその一例です。



通所介護計画の見直し時に家族からアンケートを取る際の例

様　　2015年1月13日

いつもご利用いただきありがとうございます。
半年に一度の通所介護計画書の更新の時期になりました。
お手数ではございますが、現在のご自宅でのご様子をお知らせください。

・現在、デイサービスに行かない日はどのように
お過ごしですか？

・ご自宅での排泄はどのように行っていますか？
（現在もパットなどお使いですか？）

・ご自宅での入浴はどのように行っていますか？
（衣類のお着替え、歯磨きや整容など）

・家事などはされていますか？

・外出などはされていますか？

・現在、お困りのことはありますか？

・この半年間で変わったことはありますか？

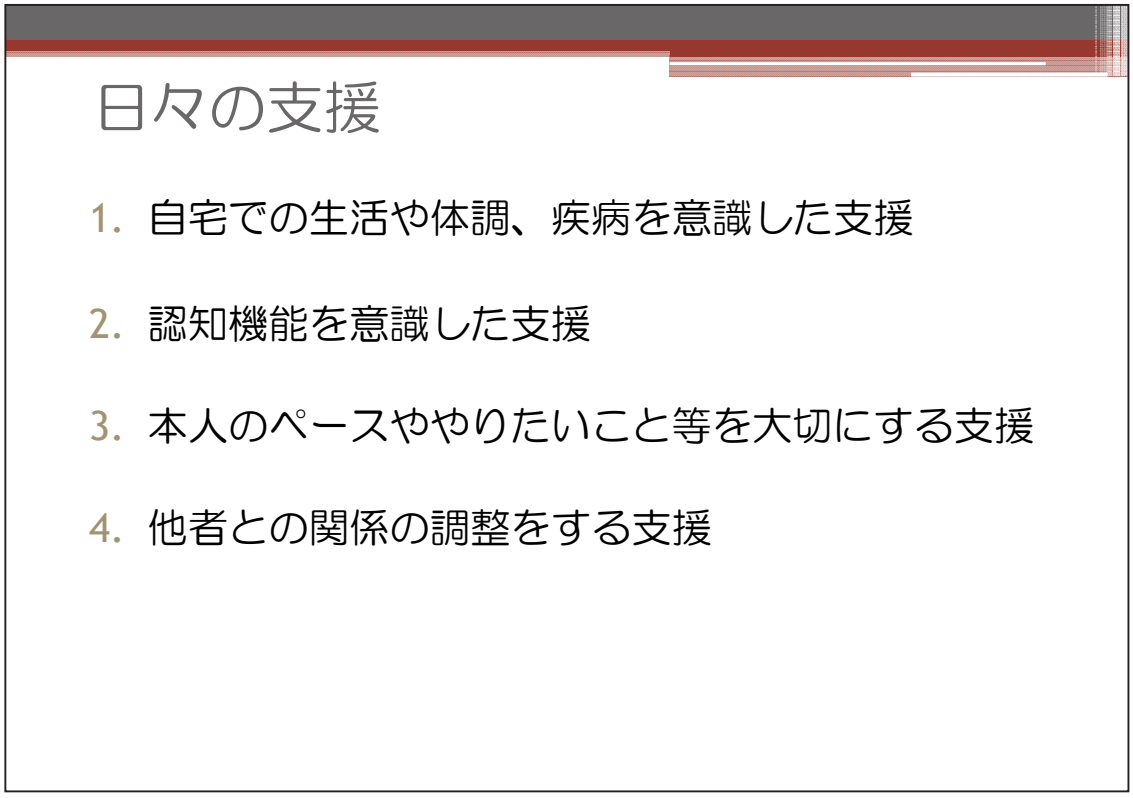
・デイサービスへのご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

やがわデイサービス（東京都国立市、認知症対応型通所介護：単独型）

このように、通所介護計画の立案には様々な工夫が見られますが、最も大切なこととして、通所介護計画をきちんとサービスに反映させるために、職員間での共有をしっかり行うようにしましょう。共有の方法は様々で、アセスメントの結果同様、職員間のミーティングや定例会議の時に共有したり、申し送りノートを活用するなど、やりやすい方法で共有を徹底しましょう。



C）日々の支援



日々の支援において留意している点としては、自宅での生活や体調、疾病を意識した支援、認知機能を意識した支援、本人のペースややりたいこと等を大切にする支援、他者との関係を調整する支援の４つが多く報告されました。

1.　自宅での生活や体調、疾病を意識した支援

認知症の人は大きく分けて３つの障害を持っています。１つ目は記憶障害に代表される認知機能障害、２つ目は行動と心理学的障害（行動心理症状：BPSD)、そして３つ目は生活行為・動作における障害（生活障害）です[18]。デイサービスではこれらの障害に対し、適切に対応していくことが求められますが、しかし利用者は四六時中デイサービスで過ごしているわけではありません。また、自宅での生活が安定することで、利用者も家族も穏やかに安心して生活を送ることができることから、デイサービスで提供される日々の支援は、自宅での生活パターンを意識した支援が求められます。

また、認知症の人はその疾患ゆえ、体調が悪い時や水分が不足している時、便が出ていない時などにうまく伝えられなかったり、高血圧や糖尿病といった疾病を持っていることもあります。利用者の体調管理や疾病についても意識して支援しましょう。

18　朝田隆（研究代表者）「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」平成 23 ～ 24 年度総合研究報告書、厚生労働科学研究費補助金認知症対策総合研究事業、2013 年 3 月、p2 より一部引用。

2.　認知機能を意識した支援

認知症の人は、認知機能や ADL の低下により、それまでできたことができなくなってくることがありますが、機能訓練や支援を行うことで進行を遅らせたり、進行に合わせた支援を適切に提供していくようにしましょう。具体的には以下のようなことに気を付けましょう。

1．利用者の表情や言動から気持ちを読み取る

利用者が活動内容に満足できているか、職員や他の利用者との関わりに不満を持っていないか、わからないことやできないことで戸惑っていないかなどを、表情や言動から読み取りましょう。目が泳いでいたり、落ち着きがなかったりというサインを見逃さないようにしましょう。

2．できることとできないことを観察し、適宜支援を行う

日常生活行動動作を細分化し、「できること」と「できないこと」を確認し、「どの部分につまづいているのか」を明らかにした上でケアの方法を統一しましょう。人によってケアの仕方が異なると、利用者は混乱します。

例えば、最近になって失禁がみられるようになった利用者に対し、水分の摂取状況を確認しつつ、①尿意はありそうか、②トイレの場所は認識できているか、③トイレに行きたいときに見られる兆候はあるか（例：落ち着かなくなる、急に立ち上がるなど）、④トイレのドアを開けるところからの一連の動作はできているか（例：ズボンを下ろす、下着を下ろす、便座に座る、など）を確認し、それにあわせてトイレをしたり、声掛けや介助を行うようにします。

3．声かけはわかりやすく、具体的に行う

認知症の人に限らず、多くの言葉を一度に言われると、混乱します。易しく、具体的な言葉で、端的に伝えるように心がけましょう。

例：「この前皆で XX に行きましたよね」

→「先月の半ばに○○さんや○○さんと一緒に××に行きましたよね」

4．笑顔で目を合わせる

認知症の人と話す時には、笑顔はもちろん、目をあわせて優しく穏やかに話しましょう。認知症が進行してくると、言葉を理解するよりも、介護者の表情からサインを読み取ろうとします。

3.　本人のペースややりたいこと等を大切にする支援

利用者には、それまで長い年月をかけて培ってきた生活パターンやペースがあります。そういった、その人の生活パターンやペースを知り、それに合わせることは認知症の人に関わる際にとても大切です。代表例として、送迎とアクティビティ、入浴と食事時の支援について紹介します。

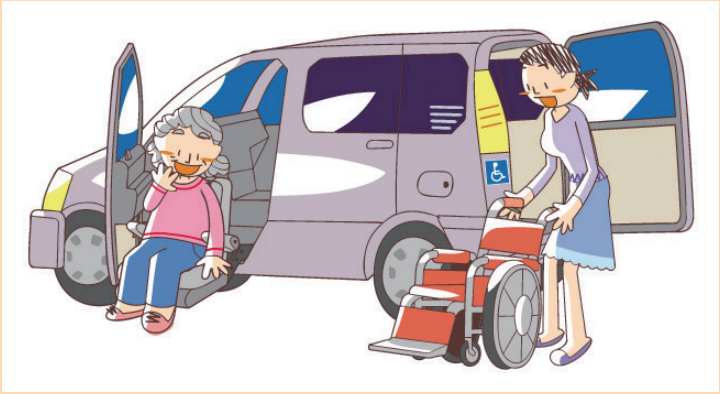
①送迎

送迎の時間はデイサービスの利用時間に合わせて設定されています。しかしその時間は利用者の生活パターンにあっているでしょうか？例えば、普段は朝 10：00 頃までゆっくり寝ている人に対し、デイサービスのある日だけ 9:00 にお迎えに行ってしまうと、その人の生活パターンは崩れてしまいます。逆に、普段 5：00 には起きている人に対し、10：00 過ぎまでお迎えに行かなかったとしたら、ひょっとしたらその間に外に散歩に出られていたり、昼寝をされていて起きていただけなかったりということがあるかもしれません。

デイサービスのスケジュールや交通事情もあるので、送迎時間がある程度限定されるのはやむをえませんが、できる限りその人の生活パターンやペースを知って、それに合わせていけるようにしましょう。

●送迎に拒否がある場合

お迎えの時間を調整しても、利用者が車に乗ってくれないことがあります。その背景として、これから行く先がどこかわからなかったり、不安になっていたり、前回参加した時にあまり良い思い出がなかったり、実は体調が悪い（例：便が出ていない、微熱がある、風邪気味である）など、いろいろな理由が考えられます。大切なことは利用者の気持ちに立ち、「なぜ乗りたくないのか」をきちんと考えてみることです。「家族が困るから」「一人にしておけないから」という理由は家族の介護負担軽減という視点ではとても大切ですが、それだけではなく、「本人が行きたくなるようなデイサービスづくり」をするためにはどうすればよいかという視点で考えてみましょう。



●なじみの関係づくり

とある事業所では、特にご利用開始時に乗車拒否が見られたときは、家族にも一緒にデイサービスまで来ていただくそうです。それにより、利用者も安心してデイサービスのアクティビティに参加できるそうです。また、その際少しでも早くなじんでいただけるよう、職員がマンツーマンで対応し、顔見知りとなっていくことで、その次の利用時にはその職員がお迎えに行き、利用者の不安を取り除き、家族の同席がなくてもデイサービスに安心してご参加いただけるようにしています。

●送迎は何度でも

今回伺った 25 の事業所は、利用者がデイサービスに出かける準備などが出来ていない場合には複数回にわたってお迎えに行っています。複数回行くことで馴染みの関係が築かれ、その後もスムーズにお迎えが出来るようになっているそうです。

また、認知症の人は時間によっても容態が変化します。一度行ってだめでも、時間をおいてもう一度お迎えに行ってみると、スムーズに車に乗ってくれることもあります。さらに、来所して頂いても、ずっと帰れないと思ってしまう利用者もいますので、どうしても不安な表情が取れない場合は、デイサービスの途中でお送りするのも一つの方法です。すると、本人は「帰ることができる」という事を理解し、次からは拒否が少なく来所できたという事例もあります。

その他、送迎時の工夫として、本人が発した良く使われる言葉や単語をキーワードとしてメモし、それらのキーワードを用いて「これからどこに行くのか」「何をするのか」などがわかりやすいようにするといった工夫をしている事業所もありました。

●準備は利用者のペースで [19]

準備の時間は人によって違うので、事前に家族から起床時間・準備にかかる時間を確認し、迎えの時間を決めます。迎えの時間は、決して無理な時間に設定しません。利用者の朝のペースを保つようにします。その日の着る服、持ち物など、自分で選ぶことにより利用者の出かける気持ちを尊重し、利用者が気持ち良く出かけるようにします。

準備が出来ていなければ再度迎えに行くこともありますが、デイサービス、利用者本人、家族に負担のないよう利用者本人の生活リズムを壊さないようなデイサービス利用時間を設定することが大切です。



19 平成 27 年度の介護報酬改定において、送迎時の居宅内での介助（着替えやベッドへの移乗、窓の施錠等）が所要時間の中に含まれることになりました。

②アクティビティ

利用日の活動（アクティビティ）の実施については、以下の３タイプがあります。

1. 集団アクティビティ
　事前に活動が組まれており（例：ボーリング）、利用者は基本的にその活動への参加を促される。活動の内容は週間や月間で決められているが、その活動が好みでなかったり、集中できない方に対して別のアクティビティが用意される。

2. 小規模アクティビティ
　事前に２～３程度の活動が用意されており（例：ボーリング、ちぎり絵作りなど２つ）、利用者はそのどれかへの参加を促される。活動の内容はその日の利用者の顔ぶれを見て、前日や当日に決められることが多いが、集中できない方については別の活動が用意される。

3. 当日に提案
　活動のメニューは全く決まっておらず、当日に利用者の意向を聞き、それを実施する（例：A さんからドライブの提案があったら、「ドライブに行きたい人」と誘いをかけて、そこに複数の利用者が参加する）。大体において、２～３のアクティビティに落ち着く。

＊リハビリ等の効果を期待したり、仲間づくりを行うことを目的としたアクティビティは、集団で行うことが多いようです。

特に、「当日提案型」は、認知症対応型通所介護のような小規模単位の事業所だからこそ提供できる形式と思います。利用者の意向を確認する際、職員は全体のバランスを見ながら誰に提案してもらうかをさりげなく調整したり、意欲が落ちてきている方や受け身の方の要望をいかに引き出すかという難しさもありますが、「自分のやりたいことができた」という利用者の満足感は、もっとも高いと思われます。また、その日その時の認知症の人の気持ちや意欲に応じやすく、比較的自然な流れで認知症の人の主体性を発揮しやすく、積極的な活動への参加を促しやすいという利点があります。

アクティビティのタイプはそれぞれ異なりますが、「どのやり方が正解」というものではありません。その日に参加される利用者の通所介護計画に基いたアクティビティを実施し、「楽しい」と思ったり、その活動を通じて生きがいや役割を持ったり、他の利用者と楽しい時間を過ごすことができているか否かということが重要です。





アクティビティ実施中の注意点として、利用者が短期記憶障害により、利用者が途中で戸惑うことや手順が踏めなくなること、意思決定はできるが後になって同じ意思決定をするとは限らないといった点を十分理解し、その時々の状態を観察しながら、臨機応変な対応をしていきましょう。どのような場合であっても、押し付けることや指示を出すようなやり方は避けてください。利用者の意欲や積極性に応じてアクティビティを設定しても、認知症の特性に対応できなければ、結局は利用者に対して職員が指示的な関わり方をしていることになってしまいます。

また、もし利用者がアクティビティの最中に落ち着かない様子であったり、イライラしているようであれば、促している活動が利用者に興味をわかせる内容かどうか、改めて考えてみましょう。活動が利用者にとって適切か、そこにどのような援助が必要かといった見極めを誤ると、利用者本位でないばかりか、ケアを受け入れてくれない状態をつくってしまいます。職員からは、安心し、リラックスして過ごして頂くために用意したアクティビティであっても、利用者にとってはわからないことで不安になったり、楽しむことも取り組むこともできないことも考えられます。また、悪くすると BPSD のきっかけになってしまいます。



③入浴

習慣として、夜寝る前に入浴をする人が多いと思います。しかし、デイサービスでは日中、利用者にお風呂に入っていただくことになります。それ故、拒否があったり、戸惑いがある利用者もいるかもしれません。

入浴の順番はその日の利用者によっていろいろと組まれていると思いますが、デイサービスの強みである「利用者と職員が共に過ごす時間の長さ」を活かし、利用者のペースを尊重したスケジュールを組み立てると共に、どういった声かけがあると安心して入浴されるか、入浴後にはどういった支援があると気持ちよく過ごされるのかなどを観察・確認し、日々の支援に活かしましょう。



④食事

皆さんは大勢で食事をすることが好きですか、それとも１人で食べることが好きですか？デイサービスでは複数の利用者が一緒に食事をすることが多いですが、人によっては、別の部屋で１人で食べた方が落ち着く人もいます。また、大勢で食べることで、普段は無口な人が、いろいろとお話をしてくれることもあります。食事の環境は、摂取量にも影響しますので、ぜひ「その人にあった環境」を探しましょう。



4.　他者との関係を調整する支援

デイサービス利用中、利用者同士の良好な関係を築くことはとても大切です。例えば、食事やアクティビティの時の座席などはすでに配慮されていると思います。また、利用者同士が会話をしているときには他の仕事（例：お茶を淹れる、アクティビティの準備をするなど）をしつつもしっかり耳を傾けていて、「ちょっと雲行きが怪しいな」と思うタイミングで、すかさず間に入って別の話をふったり、自分がやっていた作業のお手伝いをお願いするなどして、場を和まることも大切です。

職員が、利用者同士の関係を調整することで、利用者の認識のズレや理解の差を埋めていきましょう。職員が利用者の様子に常に目を配り、支援するタイミングを逃さず、認知症の人が安心して持っている力を発揮できれば、役割をもつことにつながったり、安心できる自分の居場所を見つけることにつながるはずです。

また、認知症ケアのポイントとして、「手を出す前に少し待ってみる」、「口を出し過ぎない」ということが言われますが、同時に「目を離さない」ことが重要です。目を離さないためには人手が必要と思われるかもしれませんが、監視や管理のような捉え方ではなく、どこまでは利用者自身で大丈夫なのか、どこから先は不安や混乱につながりそうかということを把握し、BPSD として症状が現れることを未然に防いでいくことで、限られた職員数で十分に対応が可能となります。特にデイサービスでは、集団もしくは他者との関わりを必要とするアクティビティが提供する機会が多いことから、他の利用者との理解の違いや障害の違いによってプログラムへの参加が十分できない可能性、それにより他者とのトラブルに発展する可能性など、起こりうる可能性を検討し、特に以下のような場合の対応に気をつけましょう。

●不安や焦燥感

認知症の人は、できないことやわからないことを取り繕ったり、つじつまを合わせようとして、かえって間違った行動や場違いな発言をしてしまうことがあります。

●羞恥心

身体も元気で認知機能も十分に発揮できるように見受けられる利用者に対し、アクティビティへの参加を促してもなかなか積極的に参加してもらえず、「はじめて来たからわからない」、「私はできないんです」、「なんだかよくわからないから・・・」というように、積極性がなく、主体性を感じられない受身の状態でいる場合には、自身の失敗やそれを他者に晒すことを恐れ、必死に自身を護っている姿かもしれません。

利用者が上手くできないことを周囲にさらしてしまわないよう、時には職員がわからなくて困っている人を演じてみるのもよいでしょう。出来ないと思っていた利用者が教えてくれることもあるかも知れません。利用者と一緒に困ってみてもよいでしょう。利用者が「自

分だけが出来ないのではない」と感じることができれば、他の人に聞いてみたり、お互いに相談しながら進めたりなど、その人なりの工夫をされたりします。

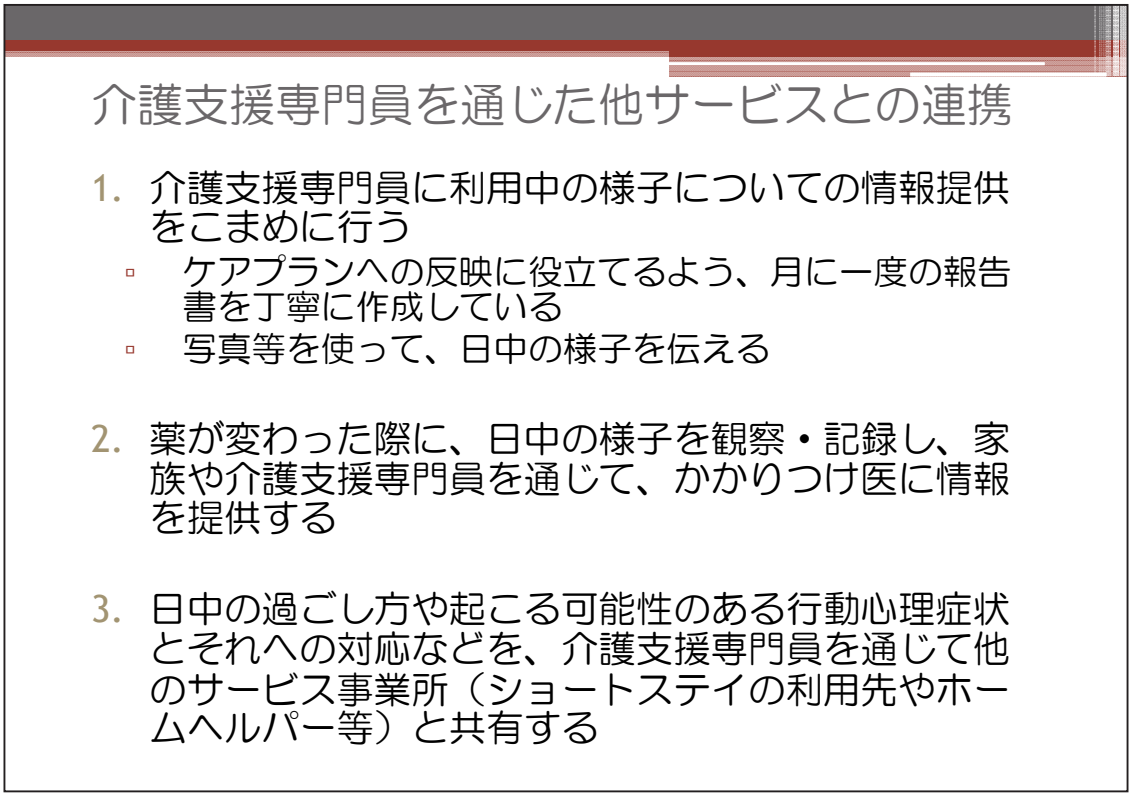
●孤立感・疎外感

「集団アクティビティに意欲的に参加できる」ということは、本人に内容を理解できる力があること、アクティビティを楽しんだり、前向きに取り組むための興味・関心を持つことができるという前提があると言えます。利用者が意欲的に活動に取り組むことを支援するためには、本人にわかること、できることをしっかりと見極めることがとても大切です。

どのような場合であっても、常に利用者の様子を把握し、その状況にあわせた適切な支援が必要です。焦りや不安などはないかを確認したり、その時その場面での様子に応じて他者との関係を調整する関わりをすることで、本人らしいリラックスした姿を見ることができるでしょう。



2. 介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携



デイサービスを利用している方の多くは、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、住宅改修やショートステイ、訪問看護といった介護保険サービスを併用しています。また、訪問医療やかかりつけ医師や配食サービスの職員、民生委員、ボランティアなど、様々な方が地域での生活をサポートしています。これら「利用者を取り巻く他のサービス機関との連携」は、認知症の人が在宅生活を地域で継続して暮らしていく上で大変重要です。

日によって、また時間帯や対応する人によっても容態の変化がみられる認知症の人が、比較的長い時間を過ごし、週に複数回利用することが出来るのがデイサービスです。その特徴を活かし、関係者との担当者会議や介護支援専門員、介護者等を通して情報を共有することにより、利用者の日常生活の支援がよりスムーズに進むことが期待されます。

＜連携の例＞

●処方されている薬が変わったケース

処方されているお薬が変わったことを家族より連絡を受け、時間ごとの利用者の様子を丁寧に記録し、次の診察日にかかりつけ医のところに持参して頂くよう家族にお願いしました。それにより、処方された薬があまり効果をなさなかったことがかかりつけ医に伝わり、再度別の薬に変わったことで、利用者の在宅での生活状況が良くなりました。

●最近排泄の失敗が増えてきたケース

排尿時間の間隔を調べる為に水分摂取量を記録し、様子（少し落ち着かなくなる、席を立つなど）を観察しながらトイレに誘導、排尿があったかどうかを確認しました。水分摂

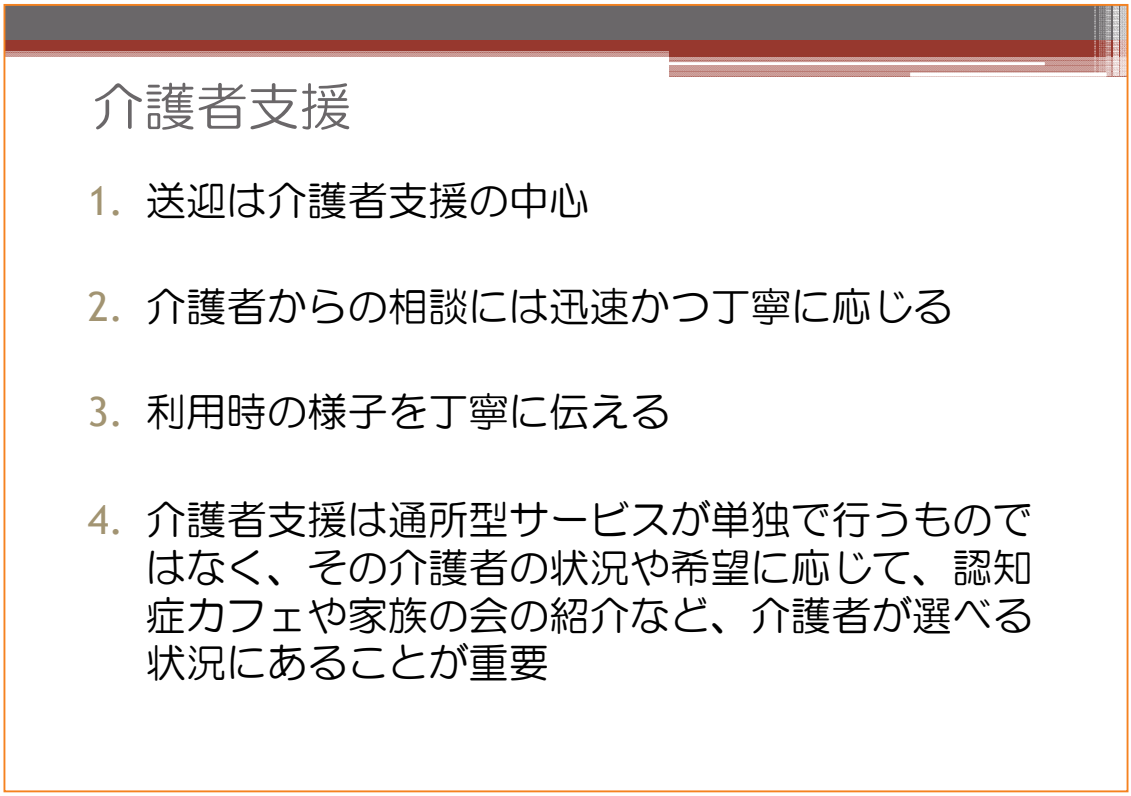
取量と排泄時前に見られる行動と排尿間隔時間を家族に伝え、自宅でも時間により声掛けをしていただくことで、失敗を未然に防ぐことができるようになりました。

●ショートステイを初めて利用されたケース

利用者が初めてショートステイを利用した時に、馴染のない場を利用する時の不安・不穏を解消することは大事です。そのために、ショートステイ先に利用者が、不安・不穏に陥る時の状況や様子を細かく記録し伝えました。そのことにより、利用者が馴染のない場でも安心していつもの生活リズムを保ち、一日を過ごすことが出来ると同時に、それによって体調がよく元気に過ごされました。



３．介護者支援



認知症の人の在宅生活の継続において、鍵を握っているのは介護者（家族）であるといって過言ではありません。しかし、一昔前と変わり、認知症の人が暮らす家族環境は、様々に変化しています。配偶者と子供、孫といった三世代が同居しているケースは徐々に減ってきており、代わりに高齢者の夫婦のみ世帯や独身の子供との二人世帯が増えてきています。また、単身（独居）世帯も増えてきています。それだけに、多様な介護者支援が求められており、その中で「デイサービスができる支援」とは何かを考えていくことが大切です。

（注意）家族支援はデイサービスだけで行うものではありません。他のサービス機関と調整をしたり（例：ヘルパーの回数を増やす）や、デイサービスの利用時間を延長するなど、いろいろな方法が考えられ、その全体を見ているのが介護支援専門員です。ぜひ気が付いたことや家族の様子は介護支援専門員に連携しましょう。

1.　送迎は家族支援の中心

今回訪問した事業所の中で、家族支援の１つとして最も多く挙がったのは、送迎時における家族との関わりです。具体的には以下のようなポイントを挙げています。

●介護者の様子を観察する
　いつも顔を合わせている家族の様子がいつもと違うと感じることがあれば、何か起こっていると考え、様子を観察し、管理者・相談員に報告します。例えば、いつもきれいにお

化粧している娘さんが、ある日髪の毛はぼさぼさでお化粧もせずに出てきたら。。。ひょっとしたら夜の間、利用者が落ち着かず、一睡もできなかったのかもしれませんし、娘さんの体調が悪いのかもしれません。他にも、「いつもきれいに片付いている玄関が、最近は物があふれている」、「掃除ができていなさそう」といった様子を察知したら、管理者・相談員に報告をし、必要に応じて介護支援専門員にも連絡を入れます。

●送迎時に家族を焦らせない

準備ができていないときなど、家族が焦ってしまい、利用者をしかったり、無理に着替えをさせたり、外に出そうとすることがありますが、かえって利用者が不安になったり、イライラされたりということがあります。そのため、まだ準備ができていないようであれば、「送迎ルートの途中でもう一度寄ってみますね」といった余裕ある対応をすると、家族も安心して利用者のペースで準備をすることができます。また、準備にかかる時間を考慮し、家族を通して利用者に事前に確認の電話をいれると、「今日は出かける日だ」と認識され、よりスムーズに準備ができるかもしれません。

●ポジティブ（前向き）な報告を中心に伝える

送り時には利用者の様子を伝える際に「がんばったこと」「楽しそうであったこと」など、ポジティブなことを中心に伝えています。これは、「本人の楽しそうな様子を伝えることで、デイサービスではこういう一面を見せるんだ」「こんなことができるんだ」という新たな気づきを家族に持っていただくことの他、家族が「迷惑をかけているからデイサービスなどを利用しながらの在宅生活継続は困難だ」と思わないよう、利用者がいかに明るく楽しく過ごしているかを、送迎時や連絡帳を使って直接家族に伝えます。

デイサービスの目的は在宅生活継続の支援にあります。できるだけ前向きな報告をし、「一緒に在宅生活を支えていきましょう」というメッセージを伝えましょう。

利用者がその日話していた内容、やりたい事の希望など、職員が聞き取ったことを記載すると、「家族の知らない本人」を知ることがあります。家族はそのような報告をとても喜びます。本人に対する家族の対応が、さらに良くなることもあるでしょう。内容によっては、アセスメントに記入するようにします。

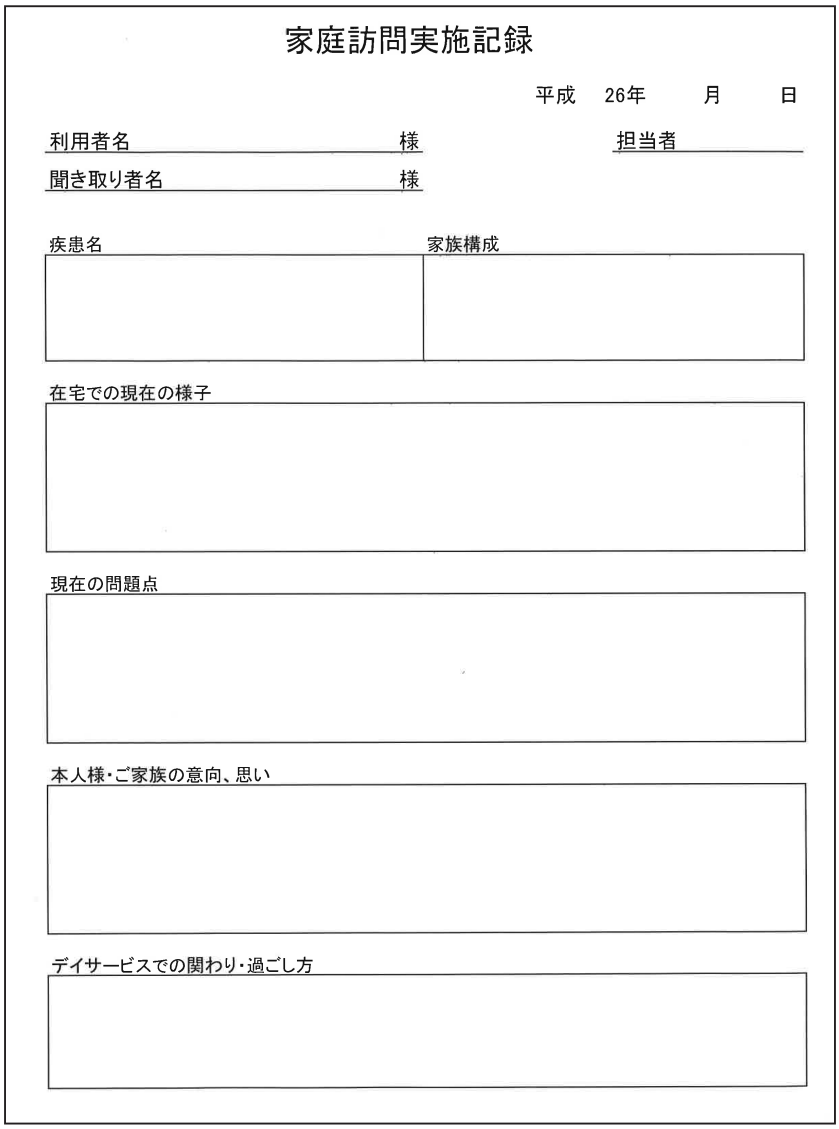
送迎は利用者を安全にお迎えし、送り届けるということの他に、利用者の生活状況の確認や利用者と家族の関係を観察したり、家族とコミュニケーションをとることのできる大変貴重な時間です。

2. 介護者からの相談は迅速かつ丁寧に応じる

認知症の人の容態は変動しやすいことに加え、進行によって症状が異なります。そのため、介護者はあるステージの介護に慣れてきたと思ったら、別の症状の対応で苦しんだり、悩んだりします。常に顔を合わせているデイサービスの職員は、そういった「介護に困った時」に相談しやすい相手の１人であり、介護者の負担軽減のためにも、迅速かつ丁寧に応じることが求められます。

また、介護者から相談が来ることを待つだけでなく、今回調査対象となった事業所では、管理者や相談員が定期的に家庭訪問を実施したり、通所介護計画の見直し時にアンケートを実施したり[20]といった、事業所側から働きかけて介護者の悩みや心配事を聞き取ることをしている事業所もありました。

家庭訪問実施記録の例



家庭訪問実施記録

平成　26年　　月　　日

利用者名　　様　　担当者

聞き取り者名　　様

疾患名　　家族構成

在宅での現在の様子

現在の問題点

本人様・ご家族の意向、思い

デイサービスでの関わり・過ごし方

せんしゅんかい風車（京都府長岡京市、認知症対応型通所介護：単独型）

20　フォーマットの例は 21 ページをご覧ください。

3.　利用時の様子を丁寧に伝える

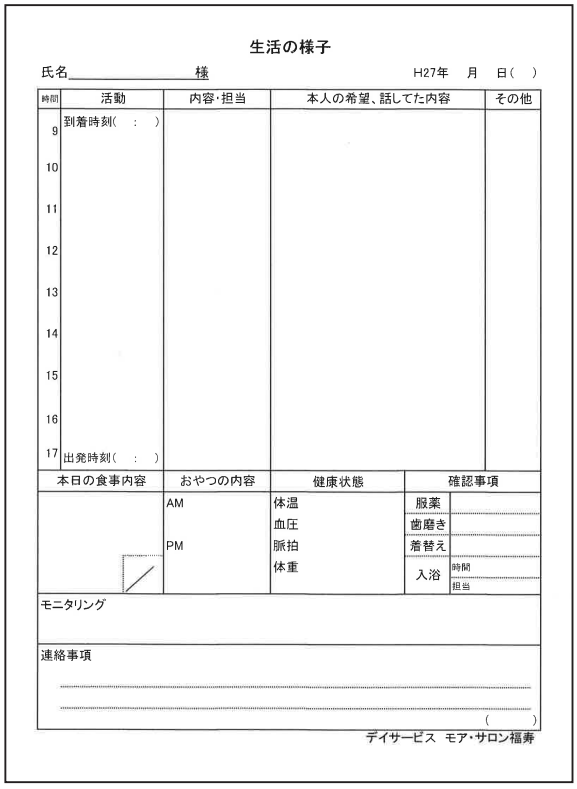
利用者の様子を介護者に伝えることは大切です。これは単にその日にあった出来事を伝えるというだけでなく、介護者と利用者のコミュニケーションのきっかけになったり、介護者の知らない利用者の一面を発見することになるなど、様々な効果をもたらします。送迎時に介護者に直接様子を伝えられるとよいですが、介護者が送迎時にいないこともあります。そういう時に連絡帳をぜひ活用しましょう。

連絡帳には以下のような情報を記載する事業所が多いかと思います。

・健康管理、排泄、食事摂取量、水分摂取（量）の記録。
・午前、午後の利用者が過ごしたプログラム内容。
・昼食（朝食、夕食）のメニュー。

文字だけの記録より、利用者が過ごした様子の写真やメニューの写真等があると家族は目で確認でき、より安心するという報告があります。また、朝の様子（体調、朝食、睡眠、服薬、排便など）を介護者が記載する欄があると、職員はその日一日の過ごし方に配慮が出来ます[21]。その他、デイサービスでの一日を流れで記載し、いつ、どのようなことをしたかがわかるような書式を使っている事業所もあります。

一日の流れにそって記載する連絡帳の例



生活の様子

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿様　　H27年　月　日（　）

時間	活動	内容・担当	本人の希望、話してた内容	その他
9	到着時刻（　：　）			
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	出発時刻（　：　）			

本日の食事内容	おやつの内容	健康状態	確認事項	
	AM	体温	服薬	
		血圧	歯磨き	
	PM	脈拍	着替え	
		体重	入浴	時間
				担当

モニタリング

連絡事項

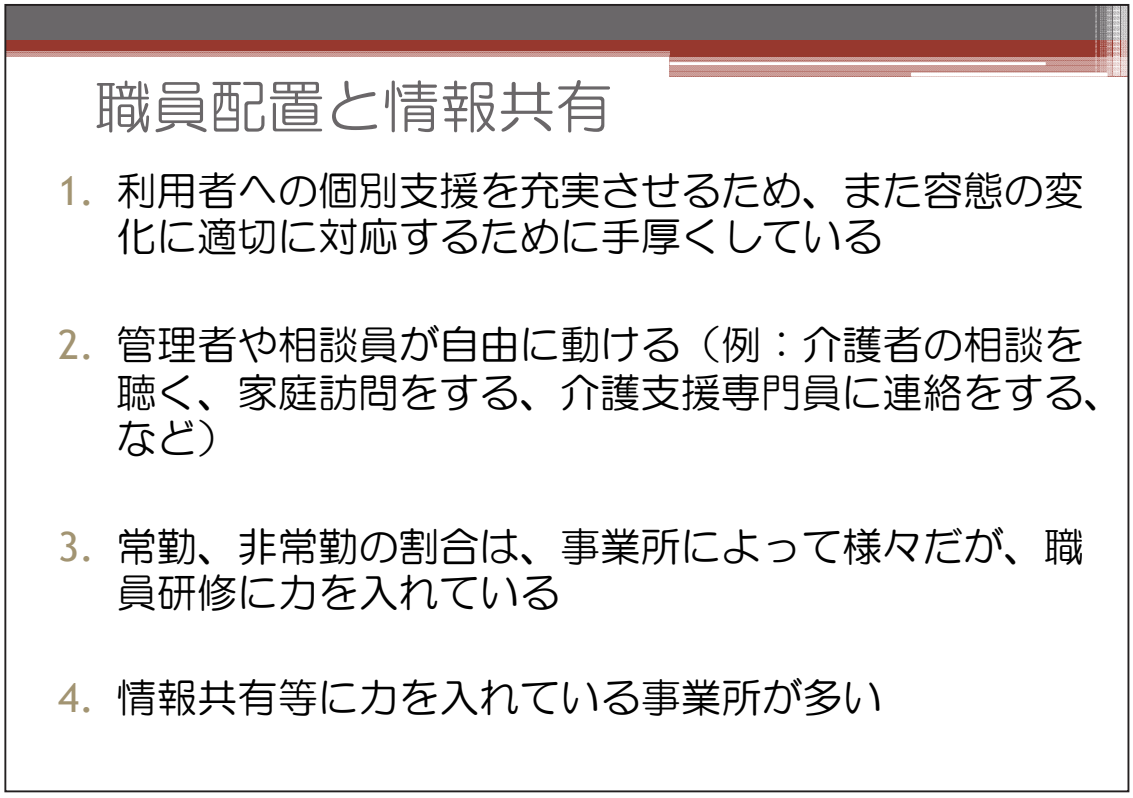
（　　）

デイサービス　モア・サロン福寿

デイサービス　モア・サロン福寿（北海道札幌市、認知症対応型通所介護：単独型）

21　（例）家族から「夜に下剤を飲ませたのですが、まだ排便がありません」と連絡があれば、対応しやすいです。

４．職員配置と情報共有



今回訪問した事業所の特徴の１つは職員配置で、基準人員配置よりも手厚い配置をし、個別支援の実践や利用者の容態の変化に適切に対応しています。

認知症の人は時間帯や環境によって容態が変化することがあります。例えば朝のうちは落ち着いていても、午後になって外に出ていかれたがることがあります。また、つい先ほどまでアクティビティに夢中になっていても、突然席を立つこともあります。そういった行動の背景には、「家族に食事を作らないと」という使命感であったり、「私が留守にしていて家族に心配をかけては申し訳ない」という罪悪感であったり、なんとなく居心地悪く感じていたりなど様々であり、その「人によって異なる理由」を踏まえた上で対応していく必要があります。また、対応方法は常に１つというわけではなく、その人の変化や理由にあわせ、適宜変えていく配慮も必要です。こういった「人によって異なる理由」や「その人の変化」を踏まえずに、通り一遍の対応をすると、利用者はかえって混乱したり、イライラしてしまうなどして、不安が強くなったり落ち着かなくなるという悪循環に陥ります。

また、日中の過ごし方は人それぞれです。その「人それぞれ」の過ごし方に合わせるためには、どうしても職員の数が必要となります。職員配置を手厚くし、利用者の変化に応じて常時適切に対応し、かつ個別支援をきちんとできるようにすることで、認知症の人は安心してデイサービスで時間を過ごすことができます。

２つ目として、職員配置を手厚くすることで、管理者や相談員が自由に動ける体制を整えています。これにより、例えば介護者から相談を受けたり、家庭訪問をして利用者や介護者の家での生活を見たり、利用中の様子を担当の介護支援専門員に伝えたりといった、細やかな支援や連携が可能となります。

３つ目として、職員の雇用形態は様々で、今回調査対象となった 25 の事業所においても、全員が常勤専従である事業所もあれば、管理者・相談員以外はすべて非常勤職員という事業所もありましたが、利用者へのケアがきちんと実施できるよう、研修を充実させている点は共通していました。特に認知症対応型通所介護事業所の管理者は、「認知症対応型サービス事業管理者研修」を受講していることが義務付けられており、この研修に出るためには「認知症介護実践者研修」を修了していなければなりません。そのため、特に認知症介護実践者研修の修了者の数が多い事業所が多く見られました[22]。

特に、情報共有の傾向として、常勤の多い事業所では定例会議や朝夕のミーティングで利用者の情報（アセスメントの記録、通所介護計画の内容、日々の支援における留意点等）などを共有しており、非常勤の多い事業所では申し送りノートや日誌などを使って情報を共有しているようです。



22 このほか、「認知症介護リーダー研修」、「認知症介護指導者研修」の修了者や「認知症ケア専門士」の資格取得者もいました。

3. 認知症の人の在宅生活継続のために

通所型サービス事業所の数は年々増え続けています。その強み（利用者と職員が共に過ごす時間の長さ、定期的かつ継続的な介護者との関わり）を活かし、「利用者の容態やペースを踏まえた臨機応変のケアの提供」と「介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供」を行うことで、国がめざす「地域包括ケアシステム」を構築していく上で、大変重要な役割であり、今後ますます増加する認知症の人を支援していくために必須のサービスです。

今回、全国の認知症対応型通所介護事業所、ならびに通所介護事業所に訪問し、認知症の利用者への支援で力を入れているポイントとして 4 つの大きな柱を見つけました。それは、①アセスメントと計画に基づく日々の支援、②介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携、③介護者支援、そして④職員配置と情報の共有、です。この手引書に書かれた多くのことは、すでに実践している事業所が多いと思いますが、増え続ける認知症の利用者を支援していくために再確認して下さい。

また、今回の調査を通じ、認知症の人を地域で支え合うための土台を担っている事業所が多く見られました。例えば、デイサービスの横の建物で認知症カフェを行い、いつでも気軽に立ち寄れる場所を提供している事業所や、ボランティアを積極的に受付け、アクティビティの進行の手伝いをしていただいている事業所[23]、利用者と共に近くの公園でサッカーをしている事業所もあれば、昼食づくりのために近くの商店街に一緒に行き、買い物をしている事業所もあります[24]。保育園がすぐ横にあり、園児と毎日交流している事業所もあれば、事業所の横のスペースを地域の交流の場として開放し、放課後に小学生が遊びにくる事業所もあります。詳細はぜひ後半の事業所紹介ページをご覧ください。

今後、平成 28 年度には、認知症対応型通所介護事業所ならびに通所介護の小規模型[25]において、地域との連携や運営の透明性の確保のために「運営推進会議」が必須となるなど、地域との関わりや結びつきは、今後ますます高まります。

認知症の人が住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けるために、通所型サービスが担う役割は今後ますます重要になります。皆様の日々の取組みに期待が寄せられます。

23 訪問した日は将棋のボランティアの人が来ており、自分も楽しみつつ利用者にも楽しんでいただいていました。また、ボランティア活動を通じ、認知症の人への接し方を学んだという意見も聞きました。
24 ただし、通所介護計画にきちんと盛り込まれている必要があります。
25 1日当たりの定員が18名以下の通所介護は地域密着型サービスに移行し、それに伴い運営推進会議の開催が必須となります。

事業所紹介

ここで紹介している事業所は、平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究」の聞き取り・観察調査にご協力をくださった、全国 25 の事業所です。どちらも、認知症の人の在宅サービス提供内容、利用者像などを踏まえた上で、ぜひ日々の支援や送迎時の取組み、家族支援の方法等、参考になさってみてください。

また、ここでご紹介している事業所は、縁があってご協力を頂きましたが、皆様の事業所をはじめ、多くの通所型サービスが様々な取組みや工夫をして、認知症の人の生活を支えています。ぜひそういった取組みや工夫を発信し、皆で認知症の人の在宅生活を支援していきましょう！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	北海道札幌市

有限会社ライフアート　モア・サロン福寿





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 194 万人	65 歳以上人口	約 45.6 万人
高齢化率	23.6%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	70 か所
地域の特性	事業所のある白石区は住宅地で、幹線道路沿いには店舗も多く、生活するには便利な場所であるが、冬場は降雪により、周辺道路の渋滞が多い。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金
営業時間	8：00 ～ 21：30
加算の算定	入浴介助、延長
介護保険外サービス	－
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：3 名 認知症介護実践者研修：3 名、認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用
通所型サービスが担うべき役割	・自宅での介護負担の軽減のために、家族にケア方法やアイディアを伝える。 ・家族や本人が相談や情報を得ることのできる場を作り、認知症について理解を深めると共に、介護者のストレス軽減をはかる。 ・本人・家族の状況をケアマネジャーに情報提供し、本人にとってその時一番良い環境をコーディネートできるよう、支援する。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：42.9%	女性：57.1%	
80 歳以上利用者の割合	21.4%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：35.7%	要介護 2：21.4%
	要介護 3：14.3%	要介護 4：7.1%	要介護 5：21.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし：7.1%	配偶者と二人暮らし：35.7%	
	子供等と同居：57.1%	その他：0.0%	（日中独居：28.6%）

○　事業所の理念・目標

生活障害となった方々の戸惑う姿を見つめるのではなく、その人の生きる生命全体を包み込むように支え、その人の人生をどのようにどれだけその人らしく生きられるかを一緒に模索する。

1．心の機能への働きかけにより、傷ついた心を癒すケアを提供する、2．その人の歴史を重んじ、本人の力を引き出しながら、その人らしい生活を構築することに努める、3．環境（人的環境含む）が周辺症状を引き起こす危険があることを十分に認識し、不安やストレスのない環境づくりに努める、4．心身ともに健やかな心地良い生活がおくれるように援助する。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の生活歴、趣味、興味、認知症の容態を理解し、今の状態を踏まえて周囲との関係調整をする。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人のできないことをさりげなくフォローし、楽しく興味をもって過ごしたり、満足感を感じることができる計画を立てる。

・個々の意向・目的（身体を動かしたい、人と話をしたい、社会と触れ合いたい、安心してゆっくりと過ごしたい、人の役に立ちたい、等）に合わせた計画を立てることに気を付けている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・個々の意向にあった活動を行えるよう、ペアリングを活動ごとに考えている。

・1 日の個別の活動内容、過ごし方、時間帯、居場所や対応するスタッフ、役割分担を時系列で記入し、スタッフ間で共有している。

○　送迎時に心がけていること

・家族との情報交換と共に、家族の思い、変化を感じ取ることを心がける。

・行きは自宅での様子の確認し、帰りは自宅に戻って本人が混乱しないよう、個々にあった会話をする。

○　家族・介護者支援

・月に一回、家族が主体となり、家族会を開催している。参加者は家族、利用者やボランティアで、家族同士が情報交換をすることで、お互いが励まし合うような状況が見られる。

・併設するグループホームの 1 床でショートステイ（介護保険）を実施している。家族のレスパイトの他、本人の夜間の様子を知ることができ、ケアのアイディアや情報を家族と共有できるようになった。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・デイでの写真を家族に渡し、利用日以外にも本人と一緒に見ていただくように促しています。これにより、早く環境になじむことができていると考えられます。

・利用開始時、徐々に環境になれるよう、家族と一緒にデイサービスに来ていただいたり、短時間で切り上げるなどし、無理のない形でデイサービスの利用を促しています。

＜事業所連絡先＞

住所	003-0834　北海道札幌市白石区北郷 4 条 12 丁目 17-7
連絡先	011-879-1600
担当者	大西　彰
同業の皆様に一言！	個別ケアが重要だと考えます。

認知症対応型通所介護	共用型	所在地	北海道札幌市

有限会社シャイニング　トトロの森デイサービス





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 194 万人	65 歳以上人口	約 45.6 万人
高齢化率	23.6%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	70 か所
地域の特性	住宅街の中にあるグループホームを活用しています。高齢者は、比較的に少ない地域です。近隣にはスーパーがあり、利用者さんと一緒にお買い物に出かけ住民の方と触れ合う機会を大切にしています。また、目の前が小さな公園で、遊びに来ている小学生のお子さん達が、「お水飲ませて！」「トイレ貸してね」と、立ち寄ってくれる事も、利用者さんには嬉しいことのようです。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・3 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	10：00 ～ 17：00
加算の算定	若年性認知症受入、入浴介助、延長
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：2 名 認知症介護リーダー研修：2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	・独居の方への配慮として、いつでも本人が困っているときには支えとなれるようにし、本人の力を発揮できる場づくりをする。 ・家族支援として、不安を聞いたり、日々の様子を伝えたり、同じ立場の人との交流の場を設けるなど、家族の状況に応じた支援を行う。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：16.7%	女性：83.3%	
80 歳以上利用者の割合	83.3%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：33.3%	要介護 2 ：0.0%
	要介護 3 ：33.3%	要介護 4 ：16.7%	要介護 5 ：16.7%
利用者の同居状況	1 人暮らし：16.7%	配偶者と二人暮らし：16.7%	
	子供等と同居：66.7%	その他：0.0%	（日中独居：50.0%）

○　事業所の理念・目標

＜基本理念＞尊厳を持って自分らしく生きる為の生活を支援する

＜目標＞1.　日々その瞬間を安心した気持ちで過ごすことが出来、いつも自己の存在を感じていられる生活環境を提供します。

2.　ご家族との連携を密に保ち、共有出来得た深い思いを具現化できるケアを提供します。

3.　地域社会との関わりを深め、いつでも立ち寄ってもらえる開放的なグループホームを目指します。

4.　積極的に職員研修の場を持ち、介護の質の向上に努めます。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の希望や生活する中で困っていること

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・家族の意向や支援してほしいこと、困りごとを考慮している。

・「買い物」を計画の中に入れ、本人の必要なものを購入する機会を設ける。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・朝食や夕食を提供し、帰宅後はそのまま休んでいただいても大丈夫なようにしている。

・グループホームの利用者と共に買い物に行くなど、外出や買い物の機会を設けている。

・役割（コーヒーを淹れる、縫い物をするなど）を提供し、本人の「居場所」「達成感」を提供する。

・地域の人との交流を行うようにしている。

・通所日以外でも、希望がある行事にはご家族と一緒に参加していただく。

○　送迎時に心がけていること

・お迎えの前に電話を入れるなどして、本人の気持ちを「デイにいく」という方向にもっていく。

・独居の方には、離れて暮らす家族の心配事をお聞きして、電気のスイッチを入れる（消す）、冬期間はストーブのタイマーを合わせるなどの支援をしている。

○　家族・介護者支援

・グループホームの運営推進会議にデイサービスの利用者家族もよんでいる。

・グループホームの交流講座（年３回実施）にデイの人も参加できるようにしている。

・月に１回、包括と一緒になって勉強会を開催している。

・連絡帳の他、必要な方へは家族との交換日記を行っている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・札幌駅の地下街で行われるイベント時にお店を出店し、そこで売る作品をデイサービスで作っていただいたり、イベント当日は利用者に売り子になっていただくなど、本人の得意を活かした支援を行っています。

＜事業所連絡先＞

住所	004-0814　北海道札幌市清田区美しが丘４条７丁目 7-12
連絡先	011-886-1044
担当者	住友　幸子
同業の皆様に一言！	それぞれの利用者さんは、住み慣れた自宅での暮らしが中心であり、通所ケアに携わる私達には、その間の姿が見えません。嬉しい出来事があったかな？ 困った場面はなかったかな？…お迎えに行って、明るい笑顔を見るとホッとします。 ご家族も、きっと同じ思いでしょう。「今、その瞬間を、心地よく」その積み重ねを、みんなで共有することが大事なのですね。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	福島県会津若松市

一般財団法人竹田健康財団　認知症専門デイサービス OASIS





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 12.3 万人	65 歳以上人口	約 3.3 万人
高齢化率	26.9%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	会津若松市は合併により人口 12 万の市となったが、生活は以前の町ごとに営まれている。事業所は会津若松市の駅から車で 10 分ほどのところにあり、周囲は民家や商店が並んでいる。バス等は通っているが、車中心の生活である。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	9：15 ～ 18：00
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練
介護保険外サービス	―
職員体制	常勤のみ
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：3 名、認知症介護リーダー研修：1 名 認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	法人内の別部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・在宅での生活の継続性（デイサービスは生活の一部である） ・家族と「専門職としての視点」（機能の維持・向上を目指す視点）と、「友人・知人のような視点」（遠慮なく意見交換ができる）をもった関係づくり。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：17.1%	女性：82.9%	
80 歳以上利用者の割合	71.4%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：22.9%	要介護 2：25.7%
	要介護 3：8.6%	要介護 4：25.7%	要介護 5：17.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし：11.4%	配偶者と二人暮らし：11.4%	
	子供等と同居：68.5%	その他：8.6%	（日中独居：25.7%）

○　事業所の理念・目標

理念：長年住み慣れた「家」「地域」で「その人らしく」暮らしていけるよう、本人・家族を支援していきます。本人・家族と向き合い、お互いに笑顔でいられるよう支援していきます。

行動指針：①本人の生き方を知り、心の声に耳を傾けていきます。②家族の思いを知り、受け止め、サポートしていきます。③地域と意見交換しながら認知症の理解を深めていきます。④チーム一丸となり、お互いの情報を共有します。⑤一人一人の支援方法を振り返り、一歩一歩前に進んでいきます。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・利用者に何を提供するとよいか、導入しやすい環境は何か
・家族が何を期待しているか、何に困っているか

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・できることを引き出すために、具体的な表現を使って注意点を挙げている。
・家族と支援方法が共有できるよう、専門用語は使わない。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・帰宅後の様子などを家族と確認し、生活リズムをつかんでいる。
・気になることは小さなことでもこまめにケアマネジャーに連携している
・本人が集中できる作業の情報を、家族やショートステイ先に提供している。

○　送迎時に心がけていること

・家族とのコミュニケーションの時間であり、家での様子、過ごし方を垣間見ることができる時間であることを意識している。
・利用者への対応の仕方を家族に見ていただく機会である。

○　家族・介護者支援

・家族会を年に３回開催し、家族や利用者の他、市町村職員やケアマネジャー、包括職員等も参加している。また、自施設の利用者以外の介護家族も受け入れている。
・出かける気持ちになるよう、迎えは時間をかけたり時間を変えたり、何回でも実施している。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・管理者が作業療法士で、個別機能訓練に力をいれています。
・この事業所の管理者が中心となり、市内の認知症対応型通所介護事業所が集まって勉強会を２か月に１回開催しています。平日夜の時間帯ですが、多くの方が参加されており、また市の認知症地域支援推進員も参加し、困難ケースへの対応についてのグループワークや情報交換を行っています。

＜事業所連絡先＞

住所	965-0876　福島県会津若松市山鹿町 4-3
連絡先	0242-38-3386
担当者	青木　智子
同業の皆様に一言！	「介護の世界では当たり前」ではなく「人として当たり前」なことが介護の世界でも当たり前になるといいですね。

認知症対応型通所介護	共用型	所在地	福島県会津若松市

社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会　みなづるデイサービスセンター





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 12.3 万人	65 歳以上人口	約 3.3 万人
高齢化率	26.9%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	会津若松市は合併により人口 12 万の市となったが、生活は以前の町ごとに営まれている。事業所のある地域の人口は約 8、500 人で、その地域からの利用者が集まっている。徒歩圏内に商店などはなく、日常生活は車が中心である。冬は積雪があり、山間部では 3 月いっぱいまで雪に覆われる。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在。

単位数・定員	1 単位・3 名
営業日	月、火、水、木、金
営業時間	9：10 ～ 16：15
加算の算定	若年性認知症受入、入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：6 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理
通所型サービスが担うべき役割	・デイサービスを利用することで、利用者が今できていることが、在宅で継続してできるよう、見守り支援を大切にしたケアを行う ・家族の介護負担の軽減

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：0.0%	女性：100.0%	
80 歳以上利用者の割合	100.0%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：0.0%	要介護 2：75.0%
	要介護 3：25.0%	要介護 4：0.0%	要介護 5：0.0%

○　事業所の理念・目標

・笑顔あふれる家庭（みなづる）づくり
・利用者、家族の立場を常に考える介護
・地域の中で自分らしく生活できる介護
・利用者主体の介護
・利用者、家族、職員が一つの家族

利用者が活き活きと暮らせるよう、全職員で個別ケアに取り組み、家族や地域の方々との交流や協力を得て、その人らしい生活が送れるよう支援する。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・職業、趣味、実家

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・食生活や生活リズムを整え、家庭的な雰囲気の中で日常生活機能の低下を予防できるよう、食事作りや掃除、洗濯等を中心に支援している

○　日々の支援で特に気を配っていること

・利用者、家族が共に体調を維持し、健康で不安なく毎日の生活を過ごすための支援を心がけている。
・支援内容は全員が一目でわかるよう、実行表に明記し、適切に実施できたかどうかの確認と評価を行い、本人、家族にとってよりよい支援となるよう、取り組んでいる。

○　送迎時に心がけていること

・利用者の状態や天候によって、職員２人体制で送迎するなど、安全な移動を心がけている。
・家族の都合により、送迎時間の調整や鍵の開閉、暖房器具の確認などを行っている。

○　家族・介護者支援

・年に４回、事業所と家族が一体となって家族会を開催している。
・事業所で行っているイベントに家族の参加を促し、家族も気分転換できるようにしている。
・冬の間は安全に送迎できるよう、利用者宅の生活道路の除雪を行っている。
・送迎時に家族の意見や不安等を引き出せるよう、ゆっくり話を聴くようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・デイサービスは民家を改修し、その奥にグループホームを建て増しした構造です。
・デイサービスで使っている居間は昔ながらの畳の部屋で、壁に沿って椅子やソファは並んでいますが、休息の時には布団を引いて寝るなど、家での生活がそのままデイサービスで行われています。
・訪問した当日、電車が止まるぐらいの雪で、事業所の周りはふくらはぎまで埋まるほど積もっていましたが、朝夕の送迎のたびに利用者の家の前の雪かきをし、安全に利用者を送迎しています。

＜事業所連絡先＞

住所	969-3481　福島県会津若松市河東町郡山字中子山 25-1
連絡先	0242-75-5501
担当者	笠井　秀則
同業の皆様に一言！	常に地域を見据え、地域に根ざした事業所となる様、頑張りましょう。

通所介護	大規模型Ⅰ	所在地	新潟県燕市

社会福祉法人桜井の里福祉会　生きがい広場地蔵堂・デイサービス





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 8.2 万人	65 歳以上人口	約 2.2 万人
高齢化率	27.3%	地域包括支援センター数	4 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	以前は多くの商店が並ぶ市街地であったが、年々店を閉めるところが増えてきている。事業所の近くには郵便局や銀行、薬局、商店街等があり、徒歩で用を足しに行くことができる距離である。事業所前には「4」と「9」のつく日に市が立ち、地域の人が集う場所である。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・35 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8：00 ～ 18：30
加算の算定	個別機能訓練、栄養改善、口腔機能向上、入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供　＊平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	―
昼食の提供	常勤の管理栄養士および調理員が調理
通所型サービスが担うべき役割	・自宅での生活の延長線として、自分でできることは自分でやっていただき、難しい部分を職員がサポートするようにする ・複数のサービスを組み合わせて利用されている人に対し、事業所間の連携を図り、安心して在宅生活を継続できるよう支援する

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：33.3%	女性：66.7%	
80 歳以上利用者の割合	71.6%		
要介護度	要支援 1 、2 ：44.6%	要介護 1 ：29.1%	要介護 2 ：19.9%
	要介護 3 ：4.3%	要介護 4 ：2.1%	要介護 5 ：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：15.6%	配偶者と二人暮らし：7.1%	
	子供等と同居：75.2%	その他：2.1%	（日中独居：0.0%）

○　事業所の理念・目標

法人理念：「もう一つのわが家づくり」を目指します。
「ご利用者とご家族の尊厳と権利を守り、人として当たり前の生活」を保障します。
「施設は地域の共有財産であり、地域住民、ご利用者、ご家族の利益を第一」とします
事業所ケア理念：「地域と共に」「生涯現役」「心づくり」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・数ある事業所の中から、等事業所を選択された理由をヒアリングし、目的や意向を踏まえた支援を行うようにしている。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・利用者の立場を基本に、本人へのヒアリングを重視し、プランに反映できるようにしている。
・知り得た情報を基に介護計画が作成できるよう、日々のケース記録には活動以外に、「嬉しいこと、楽しいこと」「やりたいこと」「不安や苦痛」といった項目を設け、活用している。
・「目標を達成するための具体的プロセス / 課題」を項目化し、それに対する本人のニーズや対応するスタッフの取り組み、家族の意向も考慮して、より具体的な計画作成に留意している。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・利用者のできることを明確にし、実践していただけるような取り組みを行っている。
・できないところをサポートし、やがてできるようになればとの思いで働きかけている。

○　送迎時に心がけていること

・個々の希望に応じて送迎の順番や座席への配慮を行っている。

○　家族・介護者支援

・家族が留守の場合、自室まで送り、送迎後に家族に確認連絡をするなど、個々に応じて行っている。
・利用日以外にも気軽に来ることができるよう、玄関ホールの一角に足湯を用意し、一般開放している。
・家族会を年に 4 回ほど開催し、勉強会や家族からの要望でいろいろな取り組みを行っている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・予防中心の通所介護ではありますが､利用者の 3 分の 1 以上は認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以上の方です（Ⅰを含めると全体の 65% 以上です）。
・認知症の症状が強くみられるようになった時、最初にご本人に今後どうされたいかを確認しています。本人が周囲との違和感を感じたり、不安が強くなっている場合には他の事業所をお勧めし、「このデイサービスを続けたい」という意向があれば、「どうすれば続けることができるか」ということを専門職の立場で考え、実践しています。

＜事業所連絡先＞

住所	959-0120　新潟県燕市分水栄町 1 番 3 号
連絡先	0256-97-7117
担当者	小杉　裕子
同業の皆様に一言！	大切にしたい事は、ご利用者が自ら選び決定する事！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	長野県上田市

社会福祉法人恵仁福祉協会　萩の家





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 16 万人	65 歳以上人口	約 4.4 万人
高齢化率	27.8%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	冬は寒さが厳しく雪が多いため、高齢者の在宅生活は大変厳しい。事業所の位置は主な駅から 15㎞程離れており、バスの数も少なく、買い物できるお店が近隣にない。車がないと日常生活が成り立たず、病院受診もできない。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助、延長
介護保険外サービス	宿泊、延長、朝食・夕食の提供 ＊平成 26 年 9 月の実績はほぼなし
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：5 名、認知症介護リーダー研修：1 名 認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	職員が調理
通所型サービスが担うべき役割	・本人の状況の細やかなアセスメントを行う。 ・家での暮らしや生活リズムを意識した支援。 ・本人や家族の思いをくみ取る。 ・家族の負担感を軽減する。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：33.3%	女性：66.7%	
80 歳以上利用者の割合	94.4%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：11.1%	要介護 2：38.9%
	要介護 3：27.8%	要介護 4：5.6%	要介護 5：16.7%
利用者の同居状況	1 人暮らし：0.0%	配偶者と二人暮らし：27.8%	
	子供等と同居：72.2%	その他：0.0%	（日中独居：33.3%）

○　事業所の理念・目標

法人理念：「人として安心して生きる日々を大切に」

事業所目標：「心地よく笑顔溢れる“心和む萩の家”になるよう、専門職の自覚と責任を持ち、チーム連携・ケアの統一をはかる」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・緊急時対応に関すること
・本人や家族の希望・要望
・個人情報保護、倫理的配慮に努める

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人や家族の思い・希望
・家での生活状態

○　日々の支援で特に気を配っていること

・本人がやりたいこと、できることの提供
・本人が希望しても、家族がなかなかしてあげられないことをできるだけ叶える。
・昔ながらのこと（行事等）を大事にし、皆が楽しめる工夫。

○　送迎時に心がけていること

・家族に家での様子や困っていることなどを聞く。
・利用中に特に輝いていたことや身体的に様子を見ていただきたいこと等を伝えている。

○　家族・介護者支援

・個々の利用者の介護技術に関する助言を行っている。
・家族交流会を年に 2 回開催している。
・個別の相談を常に受付け、信頼関係を築くようにしている。
・送迎時や連絡帳、電話等を使って、家族との情報交換を密に行っている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・昔ながらの食べ物や習慣を大事にしながら、落ち着いた安定感のあるケアを提供されています。
・利用者のペースを大事にされています。

＜事業所連絡先＞

住所	386-2203　長野県上田市真田町傍陽 6185-2
連絡先	0268-72-2781
担当者	田中　広一、松尾　弘子
同業の皆様に一言！	皆様とのネットワークをこれからも、大切にしていきたいと思います。 よろしくお願いします。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	長野県上田市

社会福祉法人ジェイエー長野会　宅老所そめや





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 16 万人	65 歳以上人口	約 4.4 万人
高齢化率	27.8%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	山に囲まれた地域で、市内には坂が多い。冬期間、一度に降る雪の量は多くはないが、朝晩の冷え込みが強いために路面が凍結しやすい。そのため、冬の間の送迎は夏場に比べてかなり時間がかかる。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症ケア専門士研修：2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	・在宅で穏やかに生活できるよう、本人らしい 1 日となる取り組みを考える。 ・必要最低限の支援を心がけ、「待つ介護」、「残存機能の活用」、「自立支援」を心がける。 ・家族にとって「大切な人が認知症になった」という思いをまず受け止め、本人だけでなく、家族の身体的、心理的状態を把握する。 ・現状を把握し、本人や家族にあった援助や助言ができるよう、関係者と連携する。 ・地域に対し、専門的な発信と地域の認知症の理解を高める。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：20.0%	女性：80.0%	
80 歳以上利用者の割合	86.7%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：0.0%	要介護 2 ：46.7%
	要介護 3 ：40.0%	要介護 4 ：13.3%	要介護 5 ：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：0.0%	配偶者と二人暮らし：13.3%	
	子供等と同居：86.7%	その他：0.0%	（日中独居：20.0%）

○　事業所の理念・目標

＜事業所理念＞本人の思いを大切にし、住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるよう支援します。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の生活歴や家族関係、自宅での過ごし方
・社会資源

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・これまでできていることが維持・継続できること。
・家族がわかりやすい内容にする。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・本人ができなくなってきていることに対するさりげない支援。例えば、縫い物が趣味の利用者が、途中まで作ったものばかりが家にある場合に、それを事業所にもってきてもらい、職員と一緒に仕上げることで、本人も家族も満足する。

○　送迎時に心がけていること

・自宅と宅老所での様子を、職員と家族とでそれぞれ確認しあい、変化を共有するようにしている。

○　家族・介護者支援

・送迎時や電話にて、家族にこまめに様子を伝えるようにしている。
・帰りの時間の変更や、利用日の変更など、安心できる利用方法を伝えている。
・利用者や家族にアンケートを実施し、満足していることや改善点などを聞いている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・民家を借りてデイサービスを行っており、道からパッと見ただけでは事業所とはわかりません。デイサービスに行くというよりも、自宅にいるような感覚です。
・四方から明るい光がさしこむ家で、利用者は自分の家にいるようなゆったりとした気分で過ごされていました。
・女性の利用者が多いこともあり、調理を通じて自立支援を行っています。写真のさくらもちと干し柿は利用者の手作りで、特に干し柿は、秋に 700 個も作ったそうです。

＜事業所連絡先＞

住所	386-0005　長野県上田市古里 2260-18
連絡先	0268-22-5277
担当者	栗原　英樹
同業の皆様に一言！	認知症の方が持っている力を発揮できるよう、日々の支援を大切にしていきましょう。

通所介護	小規模型	所在地	茨城県水戸市

特定非営利活動法人認知症ケア研究所　デイサービスお多福





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 27 万人	65 歳以上人口	約 6.4 万人
高齢化率	23.7%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	8 圏域	認知症対応型通所介護整備数	5 か所
地域の特性	四季の変化にメリハリがあり、暑い時と寒い時がはっきりとしている。海が近く、寒さが厳しい時でも雪はあまり積もらない。事業所は JR 水戸駅から車で 15 分ほどであるが、バス停が近くになく、バスの数も限りがあり、車がないと生活は不便である。近隣は閑静な住宅地で、事業所は民家を使っている。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・15 名
営業日	月、火、水、木、金、土
営業時間	9：30 ～ 16：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊　　＊平成 26 年 9 月の実績はわずか
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：3 名 認知症ケア専門士研修：4 名、認知症ケア上級専門士：1 名
昼食の提供	職員が調理している
通所型サービスが担うべき役割	・デイに通っている時間だけでなく、家での生活を意識したケアを提供する ・家族の認知症の理解を深めたり、心理的負担を軽減する。 ・地域の人々に認知症を正しく理解してもらう。 ・制度だけに頼らず、地域の力を活用し、認知症や高齢者を支援する地域の中心になる。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：15.6%　　女性：84.4%
80 歳以上利用者の割合	65.6%
要介護度	要支援 1、2：10.3%　要介護 1：55.2%　要介護 2：17.2% 要介護 3：10.3%　要介護 4：0.0%　要介護 5：6.9%
利用者の同居状況	1 人暮らし：7.4%　配偶者と二人暮らし：25.9% 子供等と同居：66.7%　その他：0.0%　（日中独居：7.4%）

○　事業所の理念・目標

理念：お多福で『幸せな』時間をそれぞれが共有できるよう　愛と知恵を生かし　一人一人の個性に合ったケアを提供します。共に笑い共に泣き　心の動くケアを目指します。地域に育まれ　家庭のような温かい空間の提供を目指します

年度目標：気持ちはいつも前向きチャレンジ　ずっと走らず息抜きを　地球にやさしく人に優しく　なんでも相談お多福へ　みんなの心をわしづかみ！「千客万来」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・これまでの生活歴

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・その人の「生活歴」を重視し、本人に希望等を聞くようにしている（本人が伝えられない場合には家族から情報収集する）

○　日々の支援で特に気を配っていること

・利用当初に拒否がみられる方に対しては、週に１度職員が顔を見せに行き、なじみの関係を築く

○　送迎時に心がけていること

・必ず家族と会話をすることを心がけている。
・帰り際に混乱しないよう、気を配っている。

○　家族・介護者支援

・月に１度「お達者クラブ」というイベントを行い、本人や家族に参加を促している。
・連絡帳は市販のノートとし、定型文を入れないようにしている（伝える言葉を大事にしている）

○　事業所の特長（研究者の視点）

・事業所の建物は大きな民家で、地域の風景になじんでいると共に、通っている人たちも、「知り合いや親戚の家にきている」という印象を持つのではないかと思います。
・隣接する幼稚園の園児たちが、午前中毎日デイサービスにやってきて、一緒に体操をしています。にぎやかな子供たちを見て、利用者たちは目を細めていますし、園児たちは利用者の顔と名前を憶えており、声をかけたり抱っこをせがんだりしています。見学時も、一人の園児が泣いていましたが、それを認知症の利用者が優しくなだめていました。

＜事業所連絡先＞

住所	310-0841　茨城県水戸市酒門町 4637-2
連絡先	029-247-9292
担当者	高橋　克佳
同業の皆様に一言！	世代間交流は、高齢者も子どもも、そしてスタッフにも！元気をくれる。もう一度ご近所付き合いを始めてみると素晴らしい出会いがあると思います。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	群馬県館林市

特定非営利活動法人お互いさまネットワーク　デイサービスセンター喜楽





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 7.8 万人	65 歳以上人口	約 1.9 万人
高齢化率	25.0%	地域包括支援センター数	3 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	3 か所
地域の特性	市内全体が平地であり、夏は暑い日が多く、気温も日本一高くなる。冬は風が強い日が多いが、雪はほとんど降らない。また、路線バスがないために、日常生活には車が必需品である。事業所は駅から徒歩 15 分程度のところにあり、周囲には畑と住宅が混在している。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日　（第 4 日曜日は休み）
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供　　＊平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：4 名 認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に作り食べる
通所型サービスが担うべき役割	・家族の悩みや相談事を聞き、一緒に考える。 ・在宅生活継続のために、1 人暮らしや老々世帯などは、服薬管理や戸締り、日常生活品の購入の支援など、必要に応じた支援を行っている。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：39.4%　　女性：60.6%
80 歳以上利用者の割合	60.6%
要介護度	要支援 1、2：3.0%　　要介護 1：21.2%　　要介護 2：27.3% 要介護 3：24.2%　　要介護 4：6.1%　　要介護 5：18.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし：21.2%　　配偶者と二人暮らし：18.2% 子供等と同居：57.6%　　その他：3.0%　　（日中独居：72.0%）

○　事業所の理念・目標

理念「デイサービスセンター喜楽は、楽しみをもってゆったり過ごす、あなたのもうひとつの家です」
年度目標「在宅生活の支えとなるデイサービスを目指す」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・昔は何をされていたか
・一日の過ごし方
・認知症の疾患や症状、薬、対応の仕方など

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・デイ利用の中で、できることを取り入れている。
・その人の思いを取り入れ、ケアプランを作成し、ケアプラン内容をわかりやすくケアポイントとし、日々実践できるようにしている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・朝のミーティングで一日の過ごし方を決めており、個別ケアポイントをどのように提供するかを確認している。
・利用者の入浴、利用時間等チェック表に毎日チェックをしている。
・デイに慣れる、楽しく過ごす、役割を持つ、能力の維持を生活リハビリとして取り組んでいる。

○　送迎時に心がけていること

・家族に家での様子や困りごとを聞く。
・戸締りや服薬の確認など、必要な支援を行う。
・デイサービス利用日以外に散歩姿を見かけたら、家族に連絡を入れる。
・行方不明の連絡があれば、一緒に捜索する。

○　家族・介護者支援

・年に２回家族会を開催している。
・連絡ノートの活用や、送迎時に家族とコミュニケーションを密にとることで、信頼関係を築いている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・設立に際し、法人理事長は地域の人たちと共に「この地域に何が必要か」を話し合い、その上で事業所を立ち上げています。そのため、地域からの信頼も厚く、地域の人がデイサービスに直接相談に来るなど、「認知症の相談窓口」として機能しています。
・男性利用者の割合が高く、また若年の利用者も多いです。
・職員研修に大変熱心で、認知症介護実践者研修を修了した職員の割合が高いです。

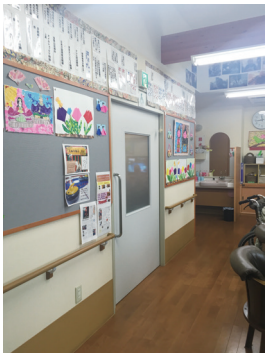
＜事業所連絡先＞

住所	374-0057　群馬県館林市北成島町 1829-5
連絡先	0276-70-1326
担当者	小川　加津子、恩田　初男
同業の皆様に一言！	認知症になっても安心して生活できるよう、その方の思いに添う支援ができればいいですね。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	群馬県高崎市

株式会社プランドゥ　スーパーデイようざん





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 37.5 万人	65 歳以上人口	約 9.4 万人
高齢化率	25.2%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	15 圏域	認知症対応型通所介護整備数	26 か所
地域の特性	夏は暑く冬は寒い。積雪は少ないが、山から吹き降ろしてくる風が冷たく強い。事業所は高崎駅から車で 10 ～ 15 分ほどで、新幹線や在来線の本数も多いが、日常生活では車がないと買い物や通院等に不便である。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日　（お正月も営業）
営業時間	7：00 ～ 21：00
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練、若年性認知症受入
介護保険外サービス	宿泊 (H27 年 3 月末まで)、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤の割合が若干高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：3 名 認知症ケア専門士研修：2 名
昼食の提供	グループ会社への委託
通所型サービスが担うべき役割	・本人がデイサービスにいるときだけでなく、1 日を通しての生活、関わっている人、家族関係等、広い視野を持って関わる。 ・家族のニーズも常に意識し、信頼関係を築く。 ・介護サービスの始まりがデイサービスということが多いので、本人の生活全般をみて、必要な情報をケアマネジャーにつなぐ。 ・認知症状の変化を随時医療機関へ連絡し、連携を深めている。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：35.7%	女性：64.3%	
80 歳以上利用者の割合	57.1%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：35.7%	要介護 2 ：21.4%
	要介護 3 ：25.0%	要介護 4 ：14.3%	要介護 5 ：3.6%
利用者の同居状況	1 人暮らし：3.6%	配偶者と二人暮らし：35.7%	
	子供等と同居：53.6%	その他：7.1%	（日中独居：10.7%）

○　事業所の理念・目標

＜法人理念＞「主権在客」

一人一人がその人らしく在宅生活を過ごしていけるように、利用者を主体にしてサービス提供を考えていく。家族との関わりも含め広い視野を持ち、関わっていく。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・昔の仕事やこだわりがあったこと。昔の趣味、好きなものなど。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・利用拒否のある方に対し、個別の支援を行い、利用につなげている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・認知症の疾患を意識し、それに対して有効とされるリハビリ等を行っている。

・満点主義で、利用者の得意なことをやっていただく。そのためには、どのレベルのどういったアクティビティに楽しく参加できているかを、常にモニタリングしている。

○　送迎時に心がけていること

・家族に直接会える貴重な時間と考えている。家族の要望や介護で大変なこと、負担に思っていることなどを聞いている。

・家族との信頼関係を築くようにしている。

○　家族・介護者支援

・年に２回、家族会で旅行をし、家族間の交流や情報交換、介護疲れの軽減を行っている。

・連絡ノートに認知症の疾患別、対応の工夫を貼り、家族にも疾患を理解した上での対応、ケアをお知らせしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・市内で認知症に特化した介護保険サービスを複数展開している法人です。

・認知症の疾患を意識し、職員にも家族にも医療や介護についての情報をきちんと提供し、認知症の本人が過ごしやすい「関わり」を心がけています。

・デイルームには、職員手作りの歴史年表や利用者一人一人の最高の笑顔の写真などが貼られ、回想法に役立てたり、ケアの成功例を職員が振り返ることができます。

・今後、認知症の人と共に地域に出ていくためにも、まずは「いきいきサロン」を月に１回程度自治会で開催し、地域の理解を深めるための土台作りをしています。

＜事業所連絡先＞

住所	370-0801　群馬県高崎市上並榎町 1180
連絡先	027-362-0300
担当者	高橋　大将、堀江　一彦
同業の皆様に一言！	認知症対応型通所介護は少ないので、連携して良いケアを提供しましょう。

通所介護	小規模型	所在地	群馬県沼田市

社会福祉法人久仁会　　いきいきデイサービス





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 5.1 万人	65 歳以上人口	約 1.5 万人
高齢化率	約 29.1%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	群馬県の北部の北部に位置し、赤城山や武尊山など日本百名山に挙げられる山々に四方を囲まれた、東西に長く、起伏に富んだ地形で、自然豊かなまちです。市街地は、市域を南北に貫流する利根川とその支流の片品川・薄根川により形成された日本一の河川段丘上に広がっています。玉原高原や国指定文化財吹割の滝など、スケールの大きい自然環境は、豊富な温泉群やリゾート施設等と相まってわが国でも有数の観光地として資質を有してます		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	9：00 ～ 16：15
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名 認知症介護リーダー研修：1 名 認知症ケア上級専門士研修：1 名
昼食の提供	法人内の栄養課（直営）で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・本人が在宅で継続して生活できるように支援していく ・日中、家族が安心して過ごせるよう、デイでの生活を大切にする ・本人の意向を聞き、アクティビティを大切にする

＜利用者：構成比＞　＊平成 26 年 9 月末現在

男女比	男性：35.0%　　女性：65.0%
80 歳以上利用者の割合	75.0%
要介護度	要支援 1 、2：10.0%　要介護 1：25.0%　要介護 2：25.0% 要介護 3：30.0%　要介護 4：10.0%　要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：31.6%　　配偶者と二人暮らし：21.1% 子供等と同居：47.4%　　その他：0.0%　（日中独居：5.3%）

○　事業所の理念・目標

地域といっしょに。あなたのために。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の意向やできること、できないことを見極め、支援していく。
・アセスメントを理解したうえで、日々の支援を通じて発見や可能性を探る。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・在宅での生活を支援するための計画づくり（自立支援）
・ケアマネジャーの計画書を基に、カンファレンスの内容やスタッフの意見を取り入れて作成している。
・ご本人・ご家族の理解の得られる内容とする。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・利用者同士がお互いにできることなどを助け合う気持ちを活かせるように心がける。
・利用者同士のコミュニケーションがとりやすいように、座席配置等を工夫する。
・スタッフが認知症について常に学び、個々にあったケアを行う。

○　送迎時に心がけていること

・荷物の確認やストーブの消灯・点灯など、必要に応じて支援する。
・家族とのコミュニケーションを大切に、常に情報共有をする。

○　家族・介護者支援

・法人が実施している家族会（年２回）にお誘いしている。
・ほほえみノート（沼田市独自の介護サービス情報連携ツール）に記録をし、他のサービスとの連携や、病院受診時に役立ててもらっている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・特養の１階にあるデイサービスで、受付の横には居酒屋（ミニバー）があります。地酒の瓶は並んでいますが、ノンアルコールの飲み物を提供しているそうです。土曜日は男性のための男性によるメンズデイを開催してます。ご自宅に持ってかえれて、喜ばれるような作品作りをめざし、材料はなーれ通貨（法人内独自の通貨）で購入してます。お手伝いをして頂いた時はなーれ通貨を報酬としています。
・同じ建物内に障害を持ったお子さんのデイサービスもあり、夕方近くになると子供たちの元気な声が聞こえてきます。障害者施設との就労支援の協力も行っています。（ぐんまちゃんグッズの作成手伝い）
・昔ながらの物品（アルミのお弁当箱、ミシン、炊飯器等）が陳列されており、回想法を取り入れつつ、利用者とのコミュニケーションを図っています。

＜事業所連絡先＞

住所	378-0005　群馬県沼田市久屋原町 414-1
連絡先	0278-25-9292
担当者	東山　しのぶ、松井　道代
同業の皆様に一言！	最後まで家族の一員であることを実感できるよう、支えていきましょう

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	千葉県四街道市

株式会社なごみ　デイサービスなごみの家





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 9.1 万人	65 歳以上人口	約 2.4 万人
高齢化率	26.4%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	2 圏域	認知症対応型通所介護整備数	1 か所
地域の特性	東京や千葉の主要都市のベッドタウンとして栄え、住宅地と農地（牧場）が広がる市である。気候は温暖で自然災害は少ない。持ち家率が 79%と高く、高齢者のみ世帯が増加の一途をたどっている。また、新興住宅地と古くから住んでいる住民との間に交流が少なく、孤立が深まっている地域もある。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	9：15 ～ 16：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供　＊平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が若干高い
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：4 名　　認知症介護実践リーダー研修：1 名 認知症介護指導者研修：0 名　　開設者研修：2 名 認知症介護認定看護師：2 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用
通所型サービスが担うべき役割	・認知症の人が最初に利用するのがデイサービスであることが多いことから、認知症の人の BPSD や閉じこもり等の改善をし、生活できる自信を本人や家族に示す。 ・本人の持っている力を発揮できるよう、環境等の調整を行う。 ・家族に対し、認知症についての具体的な啓発と予測の提示をしながら、協働して支えていく。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：33.3%	女性：66.7%	
80 歳以上利用者の割合	72.2%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：33.3%	要介護 2 ：5.6%
	要介護 3 ：33.3%	要介護 4 ：5.6%	要介護 5 ：22.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし：11.1%	配偶者と二人暮らし：33.3%	
	子供等と同居：50.0%	その他：5.6%　（日中独居：27.7%）	

○　事業所の理念・目標

「認知症になっても、自由に伸び伸びと、自分らしく『普通に』生きる（生活する）こと」を支援する。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・持っている力の発掘。
・最低２回は自宅を訪問し、様子を見たり、一日の過ごし方を確認したりする。
・本人の状況を分析するための、細かな情報を収集する。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・ポジティブな言葉で記入する。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・ケアマネジャーとの連携を大切にし、担当者会議を通じて、他事業所と連携している。
・利用者の「ルール」に合わせる支援をする。
・利用者同士の仲間づくりを心がける。

○　送迎時に心がけていること

・本人や家族を観察する。
・相談に丁寧に対応する。

○　家族・介護者支援

・行事（春の遠足、秋のメモリーウォーク）への参加を促し、その後に懇談会を開いている。
・なんでも相談できる関係づくりをしている。
・利用前、家族にも事業所の見学に来てもらい、こちらも必要に応じて何度か自宅を訪問するようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・認知症看護認定看護師が２名おり、認知症介護実践者研修修了者も４名いるなど、職員の資質向上に力を入れると共に、専門的ケアの提供を実践しています。
・民家を使ったデイサービスで、住宅街の一角にあり、周囲の環境に溶け込んでいます。
・リビングやダイニングなどをうまく使い、小さな空間から大きな空間まで、自在に作り出せる間取りとなっています。

＜事業所連絡先＞

住所	284-0001　千葉県四街道市大日 197-5
連絡先	043-309-5131
担当者	西　ケイ子
同業の皆様に一言！	認知症の人は不安を抱えながらも生涯発達をしていることに確信を持ち、『普通に生きる』ことを追求していきましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都世田谷区

認定特定非営利活動法人語らいの家　デイホーム語らいの家





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 87 万人	65 歳以上人口	約 17.3 万人
高齢化率	19.8%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	27 圏域	認知症対応型通所介護整備数	27 か所
地域の特性	周囲に公園が多く、四季折々の季節を感じることができる。近くに川があるなど、都会の中でありながら緑に囲まれており、閑静な住宅街であるため、安心して散歩等をすることができる。一人暮らしや配偶者と二人暮らしの高齢者住まいが多い。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、祝祭日
営業時間	9:00 ～ 18:00
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供、配食（夕食 1 名有り）
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名、認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤が調理。月・水は、利用者が中心に調理を行う。
通所型サービスが担うべき役割	・本人の持っている能力を活かせる活動を実践する ・家族の持つ困難や問題等を早めに知り、解決の努力を家族と共に行う ・本人の希望を支えるだけの受け皿となる

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：7.7%	女性：92.3%	
80 歳以上利用者の割合	76.9%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：15.4%	要介護 2：34.6%
	要介護 3：26.9%	要介護 4：11.5%	要介護 5：11.5%
利用者の同居状況	1 人暮らし：26.9%	配偶者と二人暮らし：26.9%	
	子供等と同居：11.5%	その他：34.6%	（日中独居：23.1%）

○　事業所の理念・目標

理念「その人がその人らしく地域でいつまでも安心して暮らし続ける」
目標「安心して楽しく過ごせるデイホーム」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・ご本人や家族の希望するデイでの過ごし方
・認知症の症状の把握、またそれによって現れる行動状況の確認
・食事作りに関しての希望や形態

○　通所介護計画の実践のために、日々の支援における事業所の特徴的な取り組み

・管理者が認知症について正しく理解し、職員にわかりやすく伝えていく
・利用者同士の交流を大切にするためにも、職員がさりげなく関わり、関係の調整を行う

○　日々の支援で特に気を配っていること

・自分の居場所があり、安心して過ごせる場となっているか
・食事摂取、排泄、健康状態がいつもと同じであるか
・個別の対応ができるよう、職員配置を多めにしている
・本人の満足度が家族に伝わり、結果的に在宅生活を継続できる力となる

○　送迎時に心がけていること

・本人の生活スケジュールに合わせた送迎時間にしている（到着は、8：30 ～ 11：00 と幅がある）
・独居の方に対し、電気類の消灯・点灯や鍵の施錠・開錠、持ち物の確認等、細かに対応している

○　家族・介護者支援

・月に 1 回、家族相談会を開催。地域住民は誰でも参加できるようにしている。
・専門のアドバイザー（精神科医または臨床心理士）の同席があり、病院ではゆっくり相談できないことでも少人数でゆったり話せるようにしている。
・家族は現在の介護や将来への不安等、精神的にかなり疲弊している。その状況を少しでも緩和し、孤立させないために、また問題を共有できる仲間を知ることを目的に開催。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・女性の利用者が多く、のんびりゆったりとした時間を過ごしつつ、仲間と共におしゃべりや活動を楽しんでいらっしゃいました。
・民家を改修した事業所で、ふすま等を取り払い、スペースを広く確保していますが、テーブル席やソファを適宜配置し、気の合う仲間同士で小さなグループをいくつか作れるよう、工夫されています。

＜事業所連絡先＞

住所	157-0066　東京都世田谷区上祖師谷 6-7-28
連絡先	03-3326-5590
担当者	坪井　信子
同業の皆様に一言！	認知症の人は出来ることがたくさんあります。焦らずに、その方のペースで対応しましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都世田谷区

株式会社すずらん　デイサービスすずらん梅丘





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 87 万人	65 歳以上人口	約 17.3 万人
高齢化率	19.8%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	27 か所
地域の特性	近隣に商店街やスーパーがあり、生活に便利な地域である。事業所は商店街を抜けた住宅街の一角にあり、静かな環境である。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	－
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：3 名 認知症介護指導者研修：1 名 認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	法人外の業者と契約し、取り寄せをしている
通所型サービスが担うべき役割	・デイサービスだけで認知症の人やご家族を支えることができるわけではないので、地域住民を含めた多職種との連携を積極的に行う。 ・在宅介護を行っている家族を支えていく。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：24.0%　　女性：76.0%
80 歳以上利用者の割合	60.0%
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%　要介護 1 ：0.0%　要介護 2 ：8.0% 要介護 3 ：28.0%　要介護 4 ：24.0%　要介護 5 ：40.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：9.1%　配偶者と二人暮らし：22.7% 子供等と同居：68.2%　その他：0.0%　（日中独居：31.8%）

○　事業所の理念・目標

理念：（現在職員と共に作成中）

目標「その人の有する能力に応じ、自立した日常生活が送れるような支援を目指す」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・家族にライフヒストリーやセンター方式の一部を渡し、アセスメントに活用している。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・ケアマネジャーからの目標だけでなく、家族や本人の意向を取り入れるようにしている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・本人がやりたいことを取り入れるようにしている。

・本人から希望を聞くことが難しい場合には、どのような支援が必要かを様々な視点から考えるようにしている。

○　送迎時に心がけていること

・帰宅前の段階で感情の昂ぶりや不安感の強い様子が見られるときには、安心して帰宅できる状態になるまで待ち、それから送るようにしている。

・準備ができていない場合には時間を改めて迎えに行ったり、送った時にいるはずの家族がいない場合には、一度利用者を連れて事業所に戻り、家族の帰宅を待ってから再度送るようにしている。

○　家族・介護者支援

・送迎時に直接相談を受けたり、話を聴くことを大切にしている。

・電話での個別相談を受けている。

・連絡ノートの記載欄を大きくとり、ご家族が伝えたいことや聞きたいことなどを書きやすいようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・角地のビルの１階にあり、大きなガラスから太陽の光がさんさんと入る明るいデイサービスです。

・他のサービスとの連携を大切にしており、お泊りサービスやショートステイを初めて利用される方には、デイサービスでの様子や支援方法を文書にして情報提供したり、ケースによっては、家族やケアマネジャーの承諾の上、主治医と直接やり取りをし、デイサービスでの様子をお伝えしたりしています。

・デイサービスでうまくいっているアクティビティ等を家族に伝えています。

＜事業所連絡先＞

住所	154-0022　東京都世田谷区梅丘 1-59-9　第２ツノダビル１階
連絡先	03-5426-3478
担当者	佐藤　勝宣
同業の皆様に一言！	この国の素敵な未来を作るために、皆で力を合わせ前進していきましょう！！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都杉並区

株式会社 Professional Works　デイサービスつむぎ





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 54.7 万人	65 歳以上人口	約 11.4 万人
高齢化率	20.9%	地域包括支援センター数	20 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	22 か所
地域の特性	一部高級住宅地が並ぶ地域であり、駅前は栄えているが、少し歩くと閑静な住宅街が続く。事業所は JR 西荻窪駅が近く、近隣に商店も多いため、買い物等生活に便利な場所である。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土
営業時間	8:30 ～ 17:30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入、延長
介護保険外サービス	－
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：4 名、認知症介護リーダー研修：2 名 認知症介護指導者研修：1 名、認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	利用者と職員が一緒に調理（毎回）
通所型サービスが担うべき役割	・できること、やれることを見極めて引き出すこと。発揮する機会と活躍する場面を作る。 ・日常の中での他者とのつながり、社会とのつながりを大切にする ・日常生活（今まで通りに続けられる）と帰宅後の安定につながる支援

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：21.6%	女性：73.9%	
80 歳以上利用者の割合	60.9%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：30.4%	要介護 2 ：21.7%
	要介護 3 ：17.4%	要介護 4 ：17.4%	要介護 5 ：13.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：17.4%	配偶者と二人暮らし：21.7%	
	子供等と同居：61.0%	その他：0.0%	（日中独居：80.0%）

○　事業所の理念・目標

・「願いと共に歩く」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・最初の３か月をかけて、じっくり本人を観察し、アセスメントしている
・転倒等のリスクの確認

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・役割や充実感がもてるような過ごし方ができる

○　日々の支援で特に気を配っていること

・まずは信頼関係を築き、自然な形で馴染み関係や存在となる。その上で本人が持っている力を把握し、今、目の前の本人の状態をモニタリングし（力を発揮できる状況か、焦っていないか、不安になっていないかなどを確認）、その人の「今」においてベストのパフォーマンスを引き出す。
・認知症の人の自立支援（自助、互助、公助）
・主体は利用者本人であり、介護職員は黒子的サポートを行う
・整容、身だしなみ等、人としての扱いをぞんざいにしない
・できないことやわからないことから、間違いや場違を晒すことに発展する前にさりげなくサポート

○　送迎時に心がけていること

・利用者と家族それぞれの表情やしぐさの変化等、普段との違いがないかを意識して観察している

○　家族・介護者支援

・連絡ノートにどのような情報を書いてほしいかをあらかじめ家族に確認し、ほしい情報を伝えている
・家族の事情によるリクエスト（送迎時間の変更等）は断らない
・家族が認知症に対する理解を深められるよう、利用者の様子を伝えるときに工夫している

○　事業所の特長（研究者の視点）

・民家を改修した事業所で、周囲の景色に溶け込んだ、とても落ち着く雰囲気です。
・毎日利用者と職員が一緒になってお昼ご飯とおやつ作りをしています。料理が得意な人はもちろん、これまで調理をしたことがない利用者たちも、食材を選んだり、包丁で切ったり、味付けをしたりと、活躍されています。
・お昼ご飯づくりを通じ、利用者一人一人が役割を持ち、お互いに助け合っています。

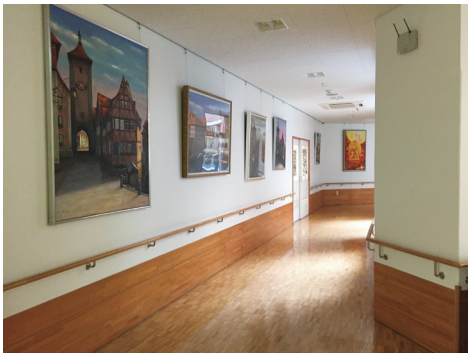
＜事業所連絡先＞

住所	167-0042　東京都杉並区西荻北 5-4-15
連絡先	03-5303-5770
担当者	島田　孝一
同業の皆様に一言！	認知症専門だからこそ、尊厳の保持と自立支援を生活目線から取り組みましょう！

認知症対応型通所介護	併設型	所在地	東京都町田市

社会福祉法人町田市福祉サービス協会　おりづる苑もりの





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 42.6 万人	65 歳以上人口	約 10.4 万人
高齢化率	24.5%	地域包括支援センター数	12 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	25 か所
地域の特性	東京郊外のベッドタウンとして発展した地域で、都会的なエリアもありながら、昔の地形もそのまま残っている。介護事業所や施設が多く、市内でも地域差があり、圏域ごとに特色が大きく異なる。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：00
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	－
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：2 名
昼食の提供	外部委託
通所型サービスが担うべき役割	・即効性のある支援から長期的なものまで、家族支援を徹底的かつ継続的に行う。 ・家族が崩壊しないように目を配る。 ・家族・介護者への認知症の症状への理解を促すアドバイスを行う。 ・デイサービスが、本人を取り巻く様々な情報発信の場であるようにする。 ・過度・過剰な介護に気を付ける。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：20.8%	女性：79.2%	
80 歳以上利用者の割合	75.5%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：18.9%	要介護 2：18.9%
	要介護 3：28.3%	要介護 4：24.5%	要介護 5：9.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし：17.0%	配偶者と二人暮らし：35.8%	
	子供等と同居：47.2%	その他：0.0%	（日中独居：15.1%）

○　事業所の理念・目標

法人の基本理念である「その人らしくよく生きる」を基本とし、利用者、介護者、他事業所、職員間の横のつながりを大切にする。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の希望や家族の考えを明確にし、すぐできることなど、優先順位をつける。
・疾患や症状等の基本情報の他、それまでの生活歴や趣味など、その人の人間像についてもできる限り情報収集する。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人・家族の思いをデイでかなえるための方法や注意点を具体的かつ端的に文章化する。
・複数のスタッフがケアに携わるので、誰が読んでも理解できるような表現を心がける。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・利用前にスタッフ全員で居宅介護計画書を含むプランの読み合わせを行っている。

○　送迎時に心がけていること

・独居や日中独居の方の場合、電気や戸締り、服薬の確認などを行っている。
・送り時に「すぐに○○さんが帰ってきますよ」「もう少しするとヘルパーさんが来ますよ」等、本人が安心するような声かけをしている。
・家族がいる場合には、その日にあった楽しいエピソードを必ず伝えるようにしている。

○　家族・介護者支援

・デイサービスの利用が安定してきたら、ケアマネジャーを通じ、他のサービスへの橋渡しの手助けを行っている。
・連絡ノートや必要時の電話、配布物などを最大限に活用し、日ごろからの人間関係を大切にしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・特養と一体となった総合施設の１階にあり、廊下に特養の利用者様が描かれた絵が展示されている（本格的な絵です）など、美術館を思わせる空間があります。
・２つのユニットは隣りあわせとなっており、行き来ができるようになっています。また、ユニットごとに利用者様の日中の過ごし方が異なり、その方にあったユニットをご紹介しています。

＜事業所連絡先＞

住所	194-0022　東京都町田市森野 4-8-39
連絡先	042-724-0034
担当者	平本　佳暢
同業の皆様に一言！	２単位ならではの特色があります。是非一度、見学にお越し下さい。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都国立市

医療法人社団つくし会　やがわデイサービスセンター





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 7.4 万人	65 歳以上人口	約 1.6 万人
高齢化率	21.5%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	1 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	国立駅周辺は住宅地で、南武線より南側の地域は昔ながらの農家が多いなど、地域性の違いがある。事業所は駅から徒歩 3 分程度のところにあり、周囲にお店や公園、資料館などがあり、便利なところである。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土
営業時間	9：00 ～ 18：00
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	－
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している / 法人外の業者と契約し取り寄せ
通所型サービスが担うべき役割	・本人のことを知り、不安や孤立感を取り除けるような関係を築く ・生活の中での生きがいとなる場所になる（第 2 の家、居心地の良い場所） ・役割を持っていただくことで、自信や前向きな気持ちになってもらう（有する能力に応じた自立支援） ・認知症の人を支える家族の変化に気づく

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：27.3%	女性：72.7%	
80 歳以上利用者の割合	81.8%		
要介護度	要支援 1 、 2 ：0.0%	要介護 1 ：31.8%	要介護 2 ：15.9%
	要介護 3 ：25.0%	要介護 4 ：13.6%	要介護 5 ：13.6%
利用者の同居状況	1 人暮らし：27.3%	配偶者と二人暮らし：18.2%	
	子供等と同居：52.3%	その他：2.3%	（日中独居：13.6%）

○　事業所の理念・目標

＜法人の基本理念＞

・24 時間住民に寄り添い生活を支える、　・先取りした組織内統合

・地域の医療・介護の基盤となる、　・自立支援、互助支援、共生支援

＜事業所理念＞当認知症対応型やがわデイサービスセンターは、個々人のはぐくんでこられた生活史を大切にしながら、現在お持ちの能力を（残存能力）最大限発揮していただき、地域で日常生活をおくっていただけるように支援いたします。センターでは、身体や言葉による拘束あるいは施錠などの管理行為は排除し、お一人お一人の状態像にあったきめ細やかな介護サービス計画（ケアプラン）を作成し支援させていただきます。また、認知症になられた高齢者が最後まで人としての尊厳を損なわず、プライバシーに十分配慮し、その人らしい生き方ができるよう家族支援を踏まえてサポートしてまいります。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・生活歴、現在の生活の様子、医療上の注意点

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・在宅生活につながる計画書づくり

○　日々の支援で特に気を配っていること

・本人のできること、好きなこと、得意なことを探し、取り入れる。

・買い物や調理、洗濯など、家事作業を取り入れている。

・公園やスーパー、資料館など地域に出ることや季節を感じること、歩く機会を多く持つ。

・ケアマネジャーや多職種への連絡を密にとっている。

○　送迎時に心がけていること

・送迎時間を短くするために、ピストン送迎をしている。

・家族の表情や言動に注意している。

○　家族・介護者支援

・毎月第一日曜日に開催されている認知症カフェに誘っている。

・相談があれば、丁寧に対応し、電話などで家族の話を聞くようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・駅近くの大変便のよいところに立地し、通りがかりの人が認知症に関するちょっとした相談にみえることもあるそうです。

・生活を踏まえた支援を通じ、利用者が意欲的になり、「手伝うわよ」と自ら声をあげてくれたそうです。

＜事業所連絡先＞

住所	186-0003　東京都国立市富士見台 4-8-2
連絡先	042-571-8500
担当者	村松　伸晃、坂本　明子
同業の皆様に一言！	認知症の方達が笑顔で、生きがいの持てる場所になるように 頑張っていきましょう！

認知症対応型通所介護	併設型	所在地	東京都立川市

社会福祉法人至誠学舎立川　至誠キートスケアセンター　デイホーム





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 17.8 万人	65 歳以上人口	約 4 万人
高齢化率	22.8%	地域包括支援センター数	6 か所
日常生活圏域数	圏域	認知症対応型通所介護整備数	10 か所
地域の特性	東京の基地の町として栄え、現在は集合住宅が多い。事業所は最寄りの JR 駅からバスで 15 分ほどのところにあり、交通の便は悪くはないが、近隣にスーパーや商店街などはなく、買い物に不自由である。古くから住んでいる大きな農家と、団地に住む人が混在している地域でもある。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名× 2　　24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練、口腔機能向上
介護保険外サービス	－
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：1 名
昼食の提供	専門の業者と契約し、建物内で調理してもらったものを提供
通所型サービスが担うべき役割	･「自立と自律の援助」有する能力を最大限に活用できるよう、サービス中に個々のニーズを見出すことが大切。 ・普通の生活を継続するという視点。 ・歩行の維持は在宅生活を継続する上で重要なことと捉え、個々にあったリハビリを実施する。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：37.9%	女性：62.1%	
80 歳以上利用者の割合	67.2%		
要介護度	要支援 1、2：1.7%	要介護 1：27.6%	要介護 2：25.9%
	要介護 3：24.1%	要介護 4：15.5%	要介護 5：5.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし：5.2%	配偶者と二人暮らし：37.9%	
	子供等と同居：56.8%	その他：0.0%　（日中独居：17.2%）	

○　事業所の理念・目標

「明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」
「まことの心」と「人間尊重」
2 つの理念を至誠ホームの精神として掲げ、地域の中で「高齢者福祉文化」を創造する。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の満足度と実施しているケアのニーズがあっているか

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人と家族の要望の確認
・目標は達成できる範囲で立てるようにしている

○　日々の支援で特に気を配っていること

・アロママッサージ等、香りと共に精神的にリラックスできる空間づくりをしている。
・状態変化等に、家族とケアマネジャーに随時報告している。
・医療面でのアドバイスについては、看護師が実施している。
送迎時に心がけていること
・歩行状態や体調等の把握。
・家族からの情報聴取を心がけている。

○　家族・介護者支援

・年に 3 回程度、家族会を開催している。
・日常生活における介護、環境整備、手続き等に関する相談を受け付けている。
・悩みや相談を受けたときや送迎時に様子が見えたときには、速やかに回答できるようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・法人として、ボランティアの参加を積極的に推進しており、訪問当日も「麻雀ボランティア（男性）」が参加し、利用者 3 名（共に男性）と卓を囲んでいました。
・他、お散歩ボランティアや喫茶ボランティアなどがいらっしゃり、利用者はその日のアクティビティを通じてボランティアと関わったり、ちょっとお茶のみに行くなどしています。
・通所介護と認知症対応型通所介護のフロアが共有できるようになっており、アクティビティを同時に行うことがありますが、利用者一人一人の興味や体調等に合わせてご案内しており、混乱等はみられません。

＜事業所連絡先＞

住所	東京都立川市幸町 4-14-1
連絡先	042-538-2322
担当者	齋藤　久美子
同業の皆様に一言！	普通の生活を基本に、一貫性を持って利用者の方と共に歩んでいきたいです。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	神奈川県鎌倉市

株式会社さくらコミュニティーケアサービス　ケアサロンさくら





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 17.7 万人	65 歳以上人口	約 5.3 万人
高齢化率	29.6%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	5 か所
地域の特性	三浦半島の西側の付け根に位置し、歴史と由緒のある市である。昭和 40 年代に宅地造成された新興住宅地を複数抱えており、それらの地区では高齢者数が増加している。事業所は住宅地の一角にある商店街にあり、目の前には八百屋さんがあり、近くに公園があるなど、地域との交流を持ちやすい立地である。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・8 名
営業日	月、火、水、木、金、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	認知症カフェ
職員体制	常勤と非常勤の割合がほぼ同じ
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症ケア専門士研修：2 名
昼食の提供	常勤職員が調理
通所型サービスが担うべき役割	・必要に応じて家族を支援し、ケアマネジャーや他の事業者と協働しながら、24 時間在宅で安心して暮らす支えを行う。 ・本人家族が暮らしやすいよう、地域住民に対して必要な助言や提案を行う。 ・利用者と共に積極的に地域社会に参加し、地域住民と交流し、認知症の正しい理解と住民同士の支え合いの一助となるよう努める。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：64.3%	女性：35.7%	
80 歳以上利用者の割合	50.0%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：7.1%	要介護 2：21.4%
	要介護 3：35.7%	要介護 4：28.6%	要介護 5：7.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし：5.2%	配偶者と二人暮らし：37.9%	
	子供等と同居：56.9%	その他：0.0%	（日中独居：17.2%）

○　事業所の理念・目標

ケアサロンさくらは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、ご利用者の尊厳を大切にしながら、地域とつながるケアを実践します。地域に開かれた介護事業所として、地域の特性に配慮し、必要に応じて地域の人々と協働しながら総合的なサービスの提供に努めます。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の様子（サービス利用時や自宅での様子、心身の状態）
・利用者の意向や自立への意欲を把握する。
・体調などの身体の状態、認知症状については、特に丁寧に把握する。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・個別の機能訓練のメニューや個別の介助方法、支援内容がある場合、具体的に記載している。
・本人の意向は、できるだけ本人の「言葉」を記載するようにしている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・希望する人は、午前中近隣の公園に行き、下肢筋力維持を目的に運動（体操、サッカーのパス交換、キャッチボールなど）を行っている。子供たちと一緒にサッカーをすることもある。
・自己表現の手段と機能訓練を目的とした個別アートを実施し、作品は地域の展示会に出品している。
・見当識障害がある人でも、「定食スタイル（例：煮魚定食、肉じゃが定食）」といった見覚えのある食事にすることで、「わかる」食事となっている。
・低栄養や虚弱体質を改善するため、栄養のバランスと食事量に気を配り、魚肉などのたんぱく質の量を大目に提供している。

○　送迎時に心がけていること

・近隣の利用者は、送迎時に職員が一緒に歩いて送迎し、自宅周辺の地理的状況を理解したり、視空間認知力の維持を図るように配慮している。

○　家族・介護者支援

・毎月第一土曜日にオレンジカフェ（認知症カフェ）を開催し、利用者や家族だけでなく、民生委員や地域住民、行政職員やまだサービスを利用していない認知症の人も参加している。
・家族の疑問にはいつでも回答するようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・男性利用者の割合が女性よりも高いデイサービスです。外での運動を取り入れたり、食事量を大目にするなど、体力のある方への支援が充実しています。
・地域とのかかわりをとても大切にしており、近隣の商店街の人たちも事業所に大変協力的です。

＜事業所連絡先＞

住所	247-0053　神奈川県鎌倉市今泉台 4-11-2
連絡先	0467-39-5489
担当者	稲田　秀樹　　携帯：090-7810-4033
同業の皆様に一言！	認知症デイを地域作りの拠点にしよう！！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	京都府長岡京市

医療法人社団千春会　せんしゅんかいデイサービスセンター風車





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 8 万人	65 歳以上人口	約 2 万人
高齢化率	24.6%	地域包括支援センター数	2 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	2 か所
地域の特性	交通の便もよく、近くに JR と阪急電車が通っており、日常生活に支障はない。昔から住んでいる人の多い地域と、新しく開発された地区とがある。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日　（お正月含め 365 日営業）
営業時間	10：00 ～ 17：00
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入、口腔機能向上、延長、入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症介護リーダー研修：2 名 認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	法人内の別の部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	デイサービスを利用されている時間帯のみを考えるのではなく、家での過ごし方や夜間、利用されない日などを総合的に考え、よりよい支援を行う。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月現在

男女比	男性：30.5%	女性：69.5%	
80 歳以上利用者の割合	76.3%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：5.1%	要介護 2：23.7%
	要介護 3：33.9%	要介護 4：28.8%	要介護 5：8.5%
利用者の同居状況	1 人暮らし 16.9%	配偶者と二人暮らし：30.5%	
	子供等と同居：52.5%	その他：0.0%　（日中独居：6.8%）	

○　事業所の理念・目標

法人理念：「患者・利用者の自立を支援し、良質な医療、看護、介護を提供する。仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。」
事業所目標：「個別ケアに特化し、地域の認知症デイサービスとしての機能を確立する」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・生活歴を重点的にきいている。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・食事、排泄、入浴、移動、整容・更衣の 5 項目の評価をすると共に、FIM や DASC を実施し、介護計画を作成している。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・管理者が定期的に家庭訪問を行っている。
・FIM や DASC といった客観的な指標を使っている。
・身体介護はマニュアル化しており、それに則って実施している。

○　送迎時に心がけていること

・家族との関わりや様子を把握する。
・こちらから必ず「お変わりありませんか」ということを聞くようにしている。

○　家族・介護者支援

・デイサービス中に体調が悪いように見受けられたときには、帰宅後に電話を入れ、様子を伺うようにしている。
・家庭訪問を通じ、長い時間家族と話すことで、本音やこれからのことなど、具体的な考えを聞くことができる。
・個々の利用者の介護技術に関する助言を行っている。
・いつでも電話で相談をしてよいということを伝えている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・FIM や DASC といった客観的指標を使い、利用者の現在の様子を踏まえながら、日常ケアを実践しています。
・記録がきちんと残されているため、何がどのように変化してきたのかを把握でき、専門職間での検討に役立ちます。
・家庭訪問を定期的に行うことで、家族との信頼関係を築くと同時に、家族の本音を聞き出し、利用者の要望とすり合わせをしながら、日々のケアを提供しています。

＜事業所連絡先＞

住所	617-0828　京都府長岡京市馬場井料田 4-7
連絡先	075-952-6503
担当者	塩井　大翼、吉原　直樹
同業の皆様に一言！	一緒に認知症ケアの取り組みを頑張っていきましょう。

通所介護	小規模型	所在地	愛媛県松山市

株式会社クロス・サービス　　デイサービス来住（きし）





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 51.7 万人	65 歳以上人口	約 12.7 万人
高齢化率	24.5%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	40 圏域	認知症対応型通所介護整備数	19 か所
地域の特性	愛媛県のほぼ中央に位置し、四国で最大の人口を擁している。気候は温暖で市内中心部は路面電車が走るなど、便利であるが、市街地を離れると車が必要である。焦点、スーパー、コンビニなども多く、暮らしやすい。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・15 名（月～金。土は 20 名）
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	－
職員体制	非常勤の割合が高いが 1 日 6 ～ 7 名の職員を配置している
職員の研修受講状況	－
昼食の提供	法人内の別の部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・その人の望む暮らし方や生き方を知る ・家族との情報交換を細やかに行う ・ケアマネジャーや関係機関との情報交換をタイムリーに行う ・利用者が地域住民のひとりとして活躍できる機会を作る

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：35.0%　　女性：65.0%
80 歳以上利用者の割合	75.0%
要介護度	要支援 1、2：10.0%　要介護 1：25.0%　要介護 2：25.0% 要介護 3：30.0%　要介護 4：10.0%　要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：31.6%　配偶者と二人暮らし：21.1% 子供等と同居：47.4%　その他：0.0%　（日中独居：5.3%）

○　事業所の理念・目標

「心温まる　笑顔あふれる　もうひとつの我が家、目指します」

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・生きがいや生活の楽しみ、性格や社会性等
・利用を通じて本人を知り、表情や積極的に話してくれることなどを丁寧にみる

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・居宅サービス計画書に沿ってプランを作成する。
・具体的な援助方法を書く

○　日々の支援で特に気を配っていること

・一人ひとりの日々の状態を把握し、本人の意向を確認しながら、アクティビティを実施している。
・午前の様子を見て、午後のアクティビティにつなげる。
・ものづくりでは、利用者が普段使うものを作るようにし、お便りで事前に紹介することで、家族との会話に役立ててもらう。

送迎時に心がけていること

・利用者がデイサービスに来る価値を感じてもらえるよう、「行ってみよう」と思われる関わりを持つ。

○　家族・介護者支援

・「やまびこ広場」という地域交流の場を設け、その際にゆっくり話したり、話を聴くようにしている。
・家族に家での状態を聞き、必要なアドバイスを行う。
・家族からの相談に丁寧に対応するようにしている。
・地域の拠点として、いろいろな人が出入りできるようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・障害のデイサービスと一体的に行っており、それぞれの利用者が、それぞれの利用者を助けたり、思いやったりしている様子が見られます。
・「垣根のない人間関係づくり」に力を入れており、隣の建物では児童デイサービスも実施しているなど、若い世代から高齢者まで、いろいろな人が事業所を訪れています。
・利用者の笑顔をとても大切にしていて、デイサービスで出しているお便りには、とてもいい表情をした利用者の写真がたくさん並んでいます。

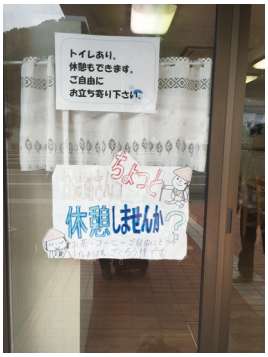
＜事業所連絡先＞

住所	791-1102　愛媛県松山市来住町 1057-1
連絡先	089-990-3111
担当者	長山　英明
同業の皆様に一言！	地域の人たちの心強い拠り所として通所介護サービスの役割や機能を進化させていきましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	愛媛県愛南町

公益財団法人正光会　デイサービスセンター「結い」じょうへん





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 2.3 万人	65 歳以上人口	約 8,700 人
高齢化率	37.8%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	2 か所
地域の特性	海と山に囲まれ、気候も温暖であるが、半島部や山間部では町の中心まで 1 時間ぐらいかかるところもある。鉄道は通っておらず、バスも限られており、通っていない地域もあるため、車がないと日常生活を送ることができないため、車が運転できない高齢者は病院や買い物に行くことが難しい。		

＜事業所情報＞　＊平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	9：30 ～ 17：00
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	－
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用している
通所型サービスが担うべき役割	・認知症の人はもちろん、その家族とも密にコミュニケーションを図れるように努め、家族をも支援していく意識を持つ。 ・通所型サービスを利用することで、地域の方々とのかかわりを分断することがないように支援を行う。 ・送迎時等、利用者が住んでいる地域の人とも良い関係性を築けるよう努め、その地域のことや地域でどう過ごされているかなど、情報収集を行う。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：25.7%	女性：74.3%	
80 歳以上利用者の割合	65.7%		
要介護度	要支援 1 、2 ：0.0%	要介護 1 ：24.2%	要介護 2 ：21.2%
	要介護 3 ：21.2%	要介護 4 ：24.2%	要介護 5 ：9.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし：11.4%	配偶者と二人暮らし：20.0%	
	子供等と同居：68.6%	その他：0.0%	（日中独居：37.1%）

○　事業所の理念・目標

＜法人理念＞ご利用者さまのために。
＜結いの理念＞年をとっても障がいをもっても、住み慣れた場所で安心して暮らせる場づくりとみんなで支え合う地域づくり。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の生活歴（家族ではわからないことも多いので、利用中の会話の中で聞き取ることが多い）
・精神的な部分（日内変動、気持ちが落ち込むようなこと等）を家族のわかる範囲で聞いている。

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・ケアマネジャーのケアプランと大きくかけ離れないように気を付けつつ、事業所の特色を活かしながら包括的な支援ができるように気を付けている。
・人生の先輩であり厳しい時代を生き抜いてきたということを念頭におき、文言等に気を付けている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・他者との交流については、他の利用者やスタッフとの交流だけでなく、隣で行っているサロンに遊びに来る小学生とも交流を図り、異世代交流ができるように努めている。

○　送迎時に心がけていること

・気持ちよく来所し、帰宅していただけるよう、車中でも密にコミュニケーションを図っている。
・利用当日や近況など、家族やヘルパーから情報をもらっている。

○　家族・介護者支援

・家族会は年に１～２回開催しており、家族の他、ケアマネジャーや地域包括の職員が参加している。
・不安が強い時や困っていることなど、ケアマネジャーに報告し、早期に解決するよう努めている。
・相談があるときには、時間をかけてゆっくり話を聴くようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・事業所の建物は元ホテルで、一階（元ロビー）に認知症対応型通所介護と地域交流サロンがあります。事業所と地域交流サロンは、入り口は一応別になっていますが、中はガラス張りの扉で仕切られており、お互いの様子が常に見えます。
・地域交流サロンには、近くにある小学生が学校帰りに立ち寄り、宿題をやったり友達とゲームをしながら、楽しく過ごしています。事業所の利用者とも交流を持っています。

＜事業所連絡先＞

住所	798-4131　愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2934 番
連絡先	0895-72-2716
担当者	青木　明美
同業の皆様に一言！	ご利用者様はもちろん、人と人、地域とのつながりを大切にしています。

通所介護	小規模型	所在地	長崎県佐世保市

有限会社 RAIMU　デイサービスセンター来夢





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 25.5 万人	65 歳以上人口	約 7.2 万人
高齢化率	28.3%	地域包括支援センター数	9 か所
日常生活圏域数	圏域	認知症対応型通所介護整備数	か所
地域の特性	地形的に平地が少なく、細くて狭い道路が多い。交通の便が悪く、車がないと移動が難しい。そのため、買い物に不便を感じている高齢者が多い。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、金、土、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供　　＊平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	看護師、調理師以外はすべて常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名、認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤が調理
通所型サービスが担うべき役割	・慣れ親しんだ地域で継続的に暮らしていく支援をすること（友人との交流、趣味活動、見慣れた風景等、これまでの生活の延長線上に介護サービスの利用がある） ・家族の介護負担の軽減。利用日以外や時間外であっても気軽に介護相談に応じると共に、相談できる関係性を構築する。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：21.1%	女性：78.9%	
80 歳以上利用者の割合	84.2%		
要介護度	要支援 1 、2：15.8%	要介護 1：47.4%	要介護 2：21.2%
	要介護 3：10.5%	要介護 4：5.3%	要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：52.6%	配偶者と二人暮らし：5.3%	
	子供等と同居：42.1%	その他：0.0%	（日中独居：15.8%）

○　事業所の理念・目標

＜理念＞その人らしさを大切に、生きがいをもった生活を送れるよう継続して支援する。
＜目標＞・情報の共有化：利用者の情報を正確に把握し、個々の問題を共有したチームケアの実践。
・知識・技術の向上：自己研鑽により、信頼されるケアを実践。
・待遇の向上：常に尊敬と感謝の気持ちを抱き、誇りの持てるケアを実践。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人のこれまでの生活
○　通所介護計画作成時に気を配っていること
・自立支援に留意しながら、自己決定ができるよう、支援している。
・ケアマネジャーとの連携を大切にしている。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・季節感を室内に取り入れるようにしており、壁画等は常に利用者と共同制作している。

○　送迎時に心がけていること

・利用者の状態把握（身体、服装、および家全体）に努め、変化に気づく観察力を磨く。
・家族との会話を大切にし、不安や不満など、些細なことでも聞き取る。
・家族との信頼関係の構築をめざし、１人５分はかけて話をする。
・自宅内の様子を観察し、暮らし方が安定しているかアセスメントする。

○　家族・介護者支援

・家族にはいつでも介護相談に応じる旨を伝え、信頼関係の構築に努めている。
・家族からの相談を待つだけではなく、こちらからも介護に悩んでいることはないか、将来への不安などを聞きとるようにしている。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・独居の方の割合が大変高く、事業所内での支援にとどまらず、在宅生活継続に必要なあらゆる支援を心がけています。
・事業所社長が地域の友人・知人と強固なネットワークを形成しており、その関係を使ってお互いがお互いの事業を助け合っています。例えば、事業所の利用者で、家にちょっとした工事が必要な場合、社長の友人の大工がさっと行って直すなどしています。逆に、認知症に関すること、介護に関する相談などがネットワーク内であがれば、事業所社長がいつでも対応しています。こういったネットワークを通じ、利用者も事業所も共に助け合いの仲間に入っています。
・地域に認知症に対する理解がないという意見を聞きますが、「だからこそ自分たち専門職がいる」と捉え、地域に積極的に出て行かれています。

＜事業所連絡先＞

住所	858-0923　長崎県佐世保市日野町 732 番地
連絡先	0956-28-4649
担当者	森　俊輔
同業の皆様に一言！	いずれ来る自分の未来をつくるため、まさに今、介護の在り方を見つめよう。待ちの福祉から町の福祉へ。

通所介護	通常規模型	所在地	福岡県筑後市

株式会社パーソン・サポート絆　デイサービス絆





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 4.9 万人	65 歳以上人口	約 1.2 万人
高齢化率	24.6%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	3 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	古くから交通の要所で、気候は温暖、肥沃な土地、恵まれた水を利用しての農業が盛んである。筑後市社会福祉協議会を中心に、地域住民の助け合いが盛んで、福祉バスを運用したり、見守り、助け合い事業やボランティア支援活動が行われている。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8：30 ～ 17：30
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入、入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	すべて常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症介護リーダー研修：1 名 認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	法人外の業者と契約し、取り寄せ
通所型サービスが担うべき役割	・利用者のリズムや在宅での暮らし方に合わせる。 ・BPSD の発生するメカニズムへの関心とその予防策の提示、発生中の関わり方を提示する（家族へのアドバイス）。 ・本人と一緒に地域に出たり、今までの縁を継続できるよう、利用者の友人にもかかわりを持つ。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：32.4%	女性：67.6%	
80 歳以上利用者の割合	64.9%		
要介護度	要支援 1、2：5.4%	要介護 1：18.9%	要介護 2：24.3%
	要介護 3：29.7%	要介護 4：16.2%	要介護 5：5.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし：5.4%	配偶者と二人暮らし：24.3%	
	子供等と同居：56.8%	その他：13.5%	（日中独居：29.7%）

○　事業所の理念・目標

縁を知り、縁を創り、縁を支えるという「支縁」をめざし、法人を設立し、かけがえのないあなたと時を刻み、支え合い、生きていくという理念をかかげ、「その人らしく」この場にいること、心を表現できる場を目指したデイサービス。認知症ケアの最後のとりでとして、認知症の人の在宅支援を目指す。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・在宅での暮らし方、リズムと、認知症の告知がされているか否か
・家族のストレス状況（心理ステップのどのあたりにいるか）

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・サービス提供中のリスク予想について
・家族と共有できる内容にする

○　日々の支援で特に気を配っていること

・予定はあまり立てず、職員一人一人が工夫し、利用者と共に一日を過ごす。
・利用者ごとのアクティビティ計画書を作成し、意識して実践する。

○　送迎時に心がけていること

・急がせない。拒否のある時や準備ができていない時は、別の便で再度迎えに行く。
・家族との信頼関係の構築をめざし、家族と 5 分程、時間をかけて話をする。
・自宅内の様子を観察し、暮らし方が安定しているかをアセスメントする。

○　家族・介護者支援

・家族会は、事業所全体の家族会と若年性認知症介護家族の会がある。月 1 回ずつ開催をしており、家族、利用者の他、ケアマネジャーや地域包括の職員、市町村や社協職員も参加している。
・認知症カフェを常時開催し、いつでも気軽に寄れるようにしたり、アロママッサージを実施している。
・利用日以外に訪問し、自宅内の環境について確認する。
・家族はチームの一員として仲間に誘っていく。

○　事業所の特長（研究者の視点）

・事業所の横の建物に、認知症カフェと相談室、アロママッサージの部屋があり、利用者家族や地域の人がいつでも気軽に立ち寄れる場所になっています。
・今回の訪問中も、家族がお茶を飲みに来たり、顔を見せに来ていました。「通りかかったから・・・」という理由で、気軽に立ち寄れる場所になっています。

＜事業所連絡先＞

住所	833-0023　福岡県筑後市馬間田 151 番地 1
連絡先	0942-65-7804
担当者	川島　豊輝
同業の皆様に一言！	地域の中で、認知症の人とそのご家族が、安心して暮らせるために、 通所系サービスの役割と、今後の可能性を信じています。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	佐賀県鹿島市

一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団　デイサービスゆうあい古枝





＜事業所のある自治体情報＞

人口	約 3.1 万人	65 歳以上人口	約 8,600 人
高齢化率	27.7%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	1 圏域	認知症対応型通所介護整備数	7 か所
地域の特性	東は海が広がり、西は山に囲まれた地域で、平地が少ないため、住宅は密集している。また、山間部に集落も多い。公共交通機関は少なく、車がないと生活が成り立たない。気候は穏やかで、自然災害が少ない地域である。		

＜事業所情報＞

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8：00 ～ 21：00
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	調理員以外はすべて常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名、認知症介護リーダー研修：1 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	・地域の介護の相談窓口であり、認知症の理解を促すための情報発信の場 ・家族介護の負担軽減。 ・認知症の人が生活を送る 24 時間を意識しての支援を提供。 ・他事業所の多職種との連携。

＜利用者：構成比＞　＊平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：21.4%	女性：78.6%	
80 歳以上利用者の割合	78.6%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：21.4%	要介護 2：21.4%
	要介護 3：35.7%	要介護 4：14.3	要介護 5：7.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし：7.1%	配偶者と二人暮らし：7.1%	
	子供等と同居：85.7%	その他：0.0%	（日中独居：　28.6%）

○　事業所の理念・目標

・認知症の人が安心して在宅生活を続けていただけるよう、お手伝いします。
・その人らしさを大切に、笑顔で過ごせる環境づくりに努めます。
・家族や地域との交流を深めます。

○　個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の生活歴、既往歴
・本人を取り巻く環境（自然・家庭・地域など）
・認知症の原因疾患と BPSD

○　通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人、家族の意向や思いを大切にしている。
・本人の日常の暮らしぶりを知り、取り入れている。
・専門用語を使わず、具体的に書く。
・ケアマネジャーと共に計画を考え、ケアマネジャーの意見を取り入れる。

○　日々の支援で特に気を配っていること

・毎日、その日の利用者に合わせた環境のレイアウトを行っている。
・24 時間の生活を前提に、利用時のかかわりを考えている。
・一人ひとりの利用者に合わせた利用スタイル。

○　送迎時に心がけていること

・本人や家族、環境に変化がないかを確認（観察）する。
・家族との情報共有。

○　家族・介護者支援

・家族会は年に１～２回開催しており、家族の他、ケアマネジャーや地域包括の職員が参加している。
・送迎時のコミュニケーションを大切にし、意識して会話をしている。
・利用者宅内の支援（配薬や戸締り・火元の確認、排せつ介助等）

○　事業所の特長（研究者の視点）

・母体法人に医療機関があることから、医療との連携がとてもよく、多職種の視点でケアが提供されています。
・認知症に関する勉強会を法人をあげて行っており、初級、中級、上級編にわけて実施しています。

＜事業所連絡先＞

住所	849-1311　佐賀県鹿島市古枝甲 999 番地 11
連絡先	0954-69-5588　　＊お問い合わせは 0954-63-5533 まで yuai@po.saganet.ne.jp
担当者	通所サービス責任者　石井大輔
同業の皆様に一言！	地域における認知症対応型通所介護の役割は大きいと思います。 皆さん一緒に頑張って地域を支えていきましょう！！

平成 26 年度　厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究

検討委員会委員（○は委員長）

粟田　主一　東京都健康長寿医療センター研究所　研究部長
落合　亮太　横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻　准教授
助川未枝保　一般社団法人日本介護支援専門員協会　常務理事
田部井康夫　公益社団法人認知症の人と家族の会　理事
中川　龍治　公益社団法人日本精神科病院協会　高齢者医療・介護保険委員会委員
○　本間　昭　社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター　センター長
松浦美知代　医療法人財団青山会　介護老人保健施設なのはな苑　看護部長

＊敬称略、50 音順

手引書作成委員会委員（○は委員長）

島田　孝一　株式会社 Professional Works　デイサービスつむぎ　代表取締役
武田　純子　有限会社ライフアート　デイサービスモア・サロン福寿　代表取締役
田村　宏　社会福祉法人町田市福祉サービス協会　つくし野デイサービスセンター管理者・生活相談員
坪井　信子　認定特定非営利活動法人語らいの家　代表理事
○　本間　昭　社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター　センター長
宮島　渡　社会福祉法人恵仁福祉協会　高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ　総合施設長

＊敬称略、50 音順

【オブザーバー】

厚生労働省老健局高齢者支援課　認知症・虐待防止対策推進室　室長補佐　櫻井　宏充
厚生労働省老健局高齢者支援課　認知症・虐待防止対策推進室　係長　岡本　慎
厚生労働省老健局高齢者支援課　認知症・虐待防止対策推進室　担当官　北澤　卓也
厚生労働省老健局振興課

【事務局】

社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター　副センター長　佐藤　信人
社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター　主任研究主幹　進藤　由美
社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター　研究事務　翠川　沙織

平成 26 年度　厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）
地域で生活する認知症の人を支える通所型サービスの手引き

平成 27 年 3 月

編集　地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究
検討委員会、手引書作成委員会

発行　社会福祉法人浴風会　認知症介護研究・研修東京センター
住所　東京都杉並区高井戸西 1-12-1
電話　03-3334-2173（代表）

禁無断転載